

平成十二年建設省令第二十号

住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則

住宅の品質確保の促進等に関する法律（平成十一年法律第八十一号）及び住宅の品質確保の促進等に関する法律施行令（平成十二年政令第六十四号）の規定に基づき、並びに同法を実施するため、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則を次のように定める。

目次

第一章 住宅性能評価

第一節 住宅性能評価（第一条―第七条の四）

第二節 登録住宅性能評価機関（第八条―第二十三条）

第三節 登録講習機関（第二十四条―第三十九条）

第二章 住宅型式性能認定等

第一節 住宅型式性能認定（第四十条―第四十二条）

第二節 認証型式住宅部分等製造者（第四十三条―第五十七条）

第三節 登録住宅型式性能認定等機関（第五十八条―第七十七条）

第三章 特別評価方法認定

第一節 特別評価方法認定（第七十八条―第八十三条）

第二章 登録試験機関（第八十四条―第九十九条）

第四章 住宅に係る紛争の処理体制

第一節 指定住宅紛争処理機関（第一百条―第一百六条）

第二節 住宅紛争処理支援センター（第一百六条の二―第二百二十四条）

第五章 権限の委任（第二百二十五条）

附則

第一章 住宅性能評価

第一節 住宅性能評価

（住宅性能評価書に記載すべき事項）

第一条 住宅の品質確保の促進等に関する法律（以下「法」という。）第五条第一項の国土交通省令・内閣府令で定める事項は、次に掲げるものとする。

一 申請者の氏名又は名称及び住所

二 住宅性能評価を行った新築住宅にあつては、当該新築住宅の建築主及び設計者の氏名又は名称及び連絡先

三 建設された住宅に係る住宅性能評価（以下「建設住宅性能評価」という。）を行った新築住宅にあつては、当該新築住宅の工事監理者及び工事施工者の氏名又は名称及び連絡先

四 住宅性能評価を行った既存住宅（新築住宅以外の住宅をいう。以下同じ。）にあつては、当該既存住宅の所有者（当該既存住宅が共同住宅、長屋その他一戸建ての住宅（住宅の用途以外の用途に供する部分を有しないものに限る。以下同じ。）以外の住宅（以下「共同住宅等」という。）である場合にあつては、住宅性能評価を行った住戸の所有者に限る。）の氏名又は名称及び連絡先

五 住宅性能評価を行った既存住宅にあつては、新築、増築、改築、移転、修繕及び模様替（修繕及び模様替にあつては、軽微なものを除く。）の時における当該既存住宅の建築主、設計者、工事監理者、工事施工者及び売主の氏名又は名称及び連絡先（国土交通大臣及び消費者庁長官が定める方法により確認されたものに限る。）並びにその確認の方法

六 住宅性能評価を行った住宅の所在地及び名称

七 住宅性能評価を行った住宅の階数、延べ面積、構造その他の当該住宅に関する基本的な事項で国土交通大臣及び消費者庁長官が定めるもの（国土交通大臣及び消費者庁長官が定める方法により確認されたものに限る。）及びその確認の方法

八 住宅の性能に関し日本住宅性能表示基準に従って表示すべき事項（以下「性能表示事項」という。）との住宅性能評価の実施の有無

九 住宅性能評価を行った住宅の性能その他日本住宅性能表示基準に従って表示すべきもの

十 住宅性能評価を行った既存住宅にあつては、住宅性能評価の際に認められた当該既存住宅に

関し特記すべき事項（前号に掲げるものを除く。）

十一 住宅性能評価を行った住宅の地盤の液状化に関し住宅性能評価の際に入手した事項のうち

参考となるもの（申請者からの申出があつた場合に限る。）

十二 住宅性能評価書を交付する登録住宅性能評価機関の名称及び登録の番号

十三 登録住宅性能評価機関の印

十四 住宅性能評価を行った評価員の氏名

十五 住宅性能評価書の交付番号

十六 住宅性能評価書を交付する年月日

（住宅性能評価書に付すべき標準章）

第二条 法第五条第一項の国土交通省令・内閣府令で定める標準章で設計住宅性能評価書に係るものは、別記第一号様式に定める標準とする。

2 法第五条第一項の国土交通省令・内閣府令で定める標準章で建設住宅性能評価書に係るものは、住宅性能評価を行った住宅が新築住宅である場合にあつては別記第二号様式に、既存住宅である

場合にあつては別記第三号様式に定める標準とする。

（設計住宅性能評価書の申請）

第三条 設計された住宅に係る住宅性能評価（以下「設計住宅性能評価」という。）の申請をしよ

うとする者は、別記第四号様式の設計住宅性能評価申請書（設計住宅性能評価書が交付された住

宅でその計画の変更をしようとするものに係る設計住宅性能評価（以下この項において「変更設

計住宅性能評価」という。）にあつては、第一面を別記第五号様式としたものとする。以下単に

「設計住宅性能評価申請書」という。）の正本及び副本に、それぞれ、設計住宅性能評価のために

必要な図書で国土交通大臣及び消費者庁長官が定めるもの（変更設計住宅性能評価にあつては、

当該変更に係るものに限る。以下この条において「設計評価申請添付図書」という。）を添えて、

これを登録住宅性能評価機関に提出しなければならない。

2 前項の申請は、性能表示事項のうち設計住宅性能評価を希望するもの（住宅性能評価を受けな

ければならない事項として国土交通大臣及び消費者庁長官が定めるもの（以下「必須評価事項」と

いう。）を除く。）を明らかにして、しなければならない。

3 住宅型式性能認定を受けた型式に適合する住宅又は住宅型式性能認定を受けた型式に適合する

住宅の部分を含む住宅に係る設計住宅性能評価の申請のうち、次に掲げるものにあつては、第一

項の規定にかかわらず、設計評価申請添付図書に明示すべき事項のうち第六十四条第一号イ（3）

の規定により指定されたものを明示することを要しない。

一 第四十一条第一項に規定する住宅型式性能認定書の写しを添えたもの

二 第四十一条第一項に規定する住宅型式性能認定書の写しを有している登録住宅性能評価機関

が設計評価申請添付図書に明示すべき事項のうち第六十四条第一号イ（3）の規定により指定

されたものを明示しないことについて評価の業務の公正かつ適確な実施に支障がないと認めた

もの

4 住宅である認証型式住宅部分等又は住宅の部分である認証型式住宅部分等を含む住宅に係る設

計住宅性能評価の申請のうち、次に掲げるものにあつては、第一項の規定にかかわらず、設計評

価申請添付図書に明示すべき事項のうち第六十四条第一号ロ（4）の規定により指定されたもの

を明示することを要しない。

一 第四十五条第一項に規定する型式住宅部分等製造者認証書の写しを添えたもの

二 第四十五条第一項に規定する型式住宅部分等製造者認証書の写しを有している登録住宅性能

評価機関が設計評価申請添付図書に明示すべき事項のうち第六十四条第一号ロ（4）の規定に

より指定されたものを明示しないことについて評価の業務の公正かつ適確な実施に支障がない

と認めたもの

5 特別評価方法認定を受けた方法（以下「認定特別評価方法」という。）を用いて評価されるべ

き住宅に係る設計住宅性能評価の申請にあつては、設計評価申請添付図書のほか、設計住宅性能

評価申請書の正本及び副本に、それぞれ、第八十条第一項に規定する特別評価方法認定書の写しを添えなければならない（登録住宅性能評価機関が、当該特別評価方法認定書の写しを有していないことその他の理由により、提出を求める場合に限る。）。

6 認定特別評価方法を用いて評価されるべき住宅に係る設計住宅性能評価の申請にあつては、設計評価申請添付図書に明示すべき事項のうち評価方法基準（当該認定特別評価方法により代えられる方法に限る。）に従って評価されるべき事項については、これを明示することを要しない。

7 登録住宅性能評価機関は、設計住宅性能評価申請書及びその添付図書の受理については、電子情報処理組織（登録住宅性能評価機関の使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。以下同じ。）と申請者の使用に係る入出力装置とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。第四条第五項において同じ。）の使用又は磁気ディスク（これに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物を含む。以下同じ。）の受理によることができる。

（設計住宅性能評価書の交付等）

第四条 設計住宅性能評価書の交付は、設計住宅性能評価申請書の副本及びその添付図書を添えて行わなければならない。

2 登録住宅性能評価機関は、次に掲げる場合においては、設計住宅性能評価書を交付してはならない。この場合において、登録住宅性能評価機関は、別記第六号様式の通知書を申請者に交付しなければならない。

一 設計住宅性能評価申請書又はその添付図書に形式上の不備があり、又はこれらに記載すべき事項の記載が不十分であると認めるとき。

二 設計住宅性能評価申請書又はその添付図書に記載された内容が明らかに虚偽であるとき。

三 申請に係る住宅の計画が、建築基準法（昭和二十五年法律第二百一十一号）第六条第一項の建築基準関係規定に適合しないと認めるとき。

3 前項の通知書の交付は、設計住宅性能評価申請書の副本及びその添付図書を添えて行うものとする。ただし、共同住宅又は長屋における二以上の住戸で一の申請者により設計住宅性能評価の申請が行われたもののうち、それらの一部について同項の通知書を交付する場合にあつては、この限りでない。

4 登録住宅性能評価機関から設計住宅性能評価書を交付された者は、設計住宅性能評価書を滅失し、汚損し、又は破損したときは、設計住宅性能評価書の再交付を当該登録住宅性能評価機関に申請することができる。

5 登録住宅性能評価機関は、前各項に規定する図書の交付については、電子情報処理組織の使用又は磁気ディスクの交付によることができる。

（建設住宅性能評価の申請）

第五条 建設住宅性能評価の申請をしようとする者は、新築住宅に係る申請にあつては別記第七号様式の、既存住宅に係る申請にあつては別記第八号様式の建設住宅性能評価申請書（建設住宅性能評価書が交付された住宅でその建設工事の変更をしようとするものに係る建設住宅性能評価（以下この項において「変更建設住宅性能評価」という。）にあつては第一面を別記第九号様式としたものとする。以下単に「建設住宅性能評価申請書」という。）の正本及び副本に、それぞれ、当該住宅に係る設計住宅性能評価書又はその写し（新築住宅について当該住宅に係る設計住宅性能評価を行った登録住宅性能評価機関とは異なる登録住宅性能評価機関に申請しようとする場合に限る。）、建設住宅性能評価のために必要な図書で国土交通大臣及び消費者庁長官が定めるもの（変更建設住宅性能評価にあつては、当該変更に係るものに限る。）並びに建築基準法第六条第一項又は第六条の二第一項の確認済証（以下この項において単に「確認済証」という。）の写しを添えて、これを登録住宅性能評価機関に提出しなければならない。ただし、同法第六条第一項の規定による確認を要しない住宅に係る申請又は既存住宅に係る建設住宅性能評価の申請にあつては、確認済証の写しの添付を要しない。

2 前項の申請は、性能表示事項のうち建設住宅性能評価を希望するもの（必須評価事項を除く。）を明らかにして、しなければならない。

3 新築住宅に係る建設住宅性能評価の申請は、検査時期（住宅性能評価のための検査を行うべき時期として評価方法基準に定められたもの（第六十四条第一号ロ（４）の規定により指定された検査が、特定の時期に行うべき検査のすべてのものである場合においては、当該時期を除く。）をいう。以下同じ。）のうち最初のものの後の工程に係る工事を開始するまでに、これを行わなければならない。ただし、検査を要しない住宅にあつては、この限りでない。

4 第三条第五項及び第六項の規定は、既存住宅に係る建設住宅性能評価の申請について準用する。

5 第三条第七項の規定は、建設住宅性能評価申請書及びその添付図書の受理について準用する。

（検査）

第六条 建設住宅性能評価（新築住宅に係るものに限る。以下この条において同じ。）の申請者は、登録住宅性能評価機関に対し、検査時期に行われるべき検査の対象となる工程（以下この条において「検査対象工程」という。）に係る工事が完了する日又は完了した日を通知しなければならない。

2 登録住宅性能評価機関は、前項の規定による通知を受理したときは、同項に規定する日又はその通知を受理した日のいずれか遅い日から七日以内に、評価員に当該検査時期における検査を行わせなければならない。

3 建設住宅性能評価の申請者は、検査が行われるまでに、当該検査対象工程に係る工事の実施の状況を報告する書類で評価方法基準に定められたもの（以下「施工状況報告書」という。）を登録住宅性能評価機関に提出しなければならない。

4 第三条第七項の規定は、施工状況報告書の受理について準用する。

5 建設住宅性能評価の申請者は、検査が行われる場合には、当該住宅の建設工事が設計住宅性能評価書に表示された性能を有する住宅のものであることを証する図書を当該工事現場に備えておかなければならない。

6 前項の図書が電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスクをもつて同項の図書に代えることができる。

7 登録住宅性能評価機関は、新築住宅に係る検査を行ったときは、遅滞なく、別記第十号様式の検査報告書により建設住宅性能評価の申請者にその旨を報告しなければならない。

8 第四条第五項の規定は、前項の規定による報告について準用する。

（建設住宅性能評価書の交付等）

第七条 建設住宅性能評価書の交付は、建設住宅性能評価申請書の副本及び第十五条第一号ロ（一）若しくはハ（二）に規定する書類（建設住宅性能評価申請書を除き、住宅性能評価に要したものに限る。）又はその写しを添えて行わなければならない。

2 登録住宅性能評価機関は、新築住宅に係る建設住宅性能評価にあつては次の各号に、既存住宅に係る建設住宅性能評価にあつては第一号、第二号又は第四号に掲げる場合においては、建設住宅性能評価書を交付してはならない。この場合において、登録住宅性能評価機関は、別記第十一号様式の通知書を申請者に交付しなければならない。

一 建設住宅性能評価申請書若しくはその添付図書、施工状況報告書又は前条第五項に規定する図書（次号において「申請書等」という。）に形式上の不備があり、又はこれらに記載すべき事項の記載が不十分であると認めるとき。

二 申請書等に記載された内容が明らかに虚偽であるとき。

三 申請に係る住宅が、建築基準法第六条第一項の建築基準関係規定に適合しないと認めるとき。

四 登録住宅性能評価機関の責に帰すことのできない事由により検査を行うことができないとき。

五 申請に係る住宅について建築基準法第七条第五項又は第七条の二第五項の検査済証が交付されていないとき。ただし、同法第七条第一項の規定による検査を要しない住宅又は同法第七条

の六第一項第一号若しくは第二号の規定による認定を受けた住宅にあつては、この限りでない。
 三 前項の通知書の交付は、建設住宅性能評価申請書の副本及びその添付図書を添えて行うものとする。第四号第三項ただし書の規定は、この場合について準用する。

四 登録住宅性能評価機関から建設住宅性能評価書を交付された者（次項において「被交付者」という。）は、建設住宅性能評価書を滅失し、汚損し、又は破損したときは、建設住宅性能評価書の再交付を当該登録住宅性能評価機関に申請することができる。

五 住宅を新築する建設工事の請負契約又は住宅を譲渡する契約を被交付者と締結し、かつ、被交付者から当該住宅に係る当該建設住宅性能評価書又はその写しを交付された者は、建設住宅性能評価書の交付を当該登録住宅性能評価機関に申請することができる。

六 第四号第五項の規定は、前各項に規定する図書の交付について準用する。

（長期使用構造等であることの確認の申請）

第七号の二 法第六条の二第二項の規定による求めをしようとする者は、別記第十一号の様式の確認申請書（第七条の四第一項第一号に規定する確認書又は法第六条の二第五項の住宅性能評価書が交付された住宅でその計画の変更をしようとするものに係る確認（以下この項において「変更確認」という。）にあつては第一面を別記第十一号の様式としたものとする。以下単に「確認申請書」という。）の正本及び副本に、それぞれ、同条第三項の規定による確認のために必要な図書で国土交通大臣が定めるもの（変更確認にあつては、当該変更に係るものに限る。）を添えて、これを登録住宅性能評価機関に提出しなければならない。

二 第三条第七項の規定は、確認申請書及びその添付図書の受理について準用する。

第七号の三 法第六条の二第二項の規定により住宅性能評価の申請と併せて同条第一項の規定による求めをしようとする場合における第三条第一項の規定及び第五条第一項の規定については、第三条第一項中「を添えて」とあるのは「並びに法第六条の二第四項の規定による確認のために必要な図書で国土交通大臣が定めるものを添えて」と、第五条第一項中「並びに建築基準法第六条第一項又は第六条の二第二項の確認済証（以下この項において単に「確認済証」という。）の写しを添えて」とあるのは「建築基準法第六条第一項又は第六条の二第二項の確認済証（以下この項において単に「確認済証」という。）の写し並びに法第六条の二第四項の規定による確認のために必要な図書で国土交通大臣が定めるものを添えて」とする。

（確認書の交付等）

第七号の四 法第六条の二第三項の規定による確認書の交付は、次の各号に掲げる場合に応じ、それぞれ当該各号に定めるものに確認申請書の副本及びその添付図書を添えて行わなければならない。

一 当該住宅の構造及び設備が長期使用構造等であることを確認した場合 別記第十一号の様式による確認書

二 当該住宅の構造及び設備が長期使用構造等でないことを確認した場合 別記第十一号の様式による確認書

2 登録住宅性能評価機関から確認書を交付された者は、確認書を滅失し、汚損し、又は破損したときは、確認書の再交付を当該登録住宅性能評価機関に申請することができる。

第二節 登録住宅性能評価機関

（登録住宅性能評価機関に係る登録の申請）

第八条 法第七号第一項に規定する登録を受けようとする者は、別記第十二号様式の登録住宅性能評価機関登録申請書に次に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

一 定款又は寄附行為及び登記事項証明書

二 申請の日の属する事業年度の前事業年度における財産目録及び貸借対照表。ただし、申請の日の属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録とする。

三 申請に係る意思の決定を証する書類

四 申請者（法人である場合はその役員（持分会社（会社法（平成十七年法律第八十六号）第五百七十五条第一項に規定する持分会社をいう。以下同じ。）にあつては、業務を執行する社員。以下同じ。）の氏名及び略歴（申請者が住宅関連事業者の役員又は職員（過去二年間に当該住宅関連事業者の役員又は職員であつた者を含む。）である場合には、その旨を含む。）を記載した書類

五 主要な株主の構成を記載した書類

六 組織及び運営に関する事項（評価の業務以外の業務を行っている場合は、当該業務の種類及び概要）を記載した書類

七 申請者が法第八号第一号及び第二号に規定する者に該当しない旨の市町村（特別区を含む。以下同じ。）の長の証明書

八 申請者が法第八号第三号から第六号までに該当しない旨を誓約する書面

九 別記第十三号様式の評価の業務の計画棟数を記載した書類

十 評価の業務を行う部門の専任の管理者の氏名及び略歴を記載した書類

十一 評価員となるべき者の氏名及び略歴を記載した書類並びに当該者が法別表の中段に掲げる者であることを証する書類及び登録講習機関が行う講習の課程を修了したことを証する書類

十二 その他参考となる事項を記載した書類

（登録住宅性能評価機関に係る登録の区分）

第九条 法第七号第二項の国土交通省令で定める区分は、同項各号に掲げる住宅の種別ごとにそれぞれ次に掲げるものとする。

一 設計住宅性能評価を行う者としての登録

二 新築住宅である住宅の建設住宅性能評価を行う者としての登録

三 既存住宅である住宅の建設住宅性能評価を行う者としての登録

（心身の故障により評価の業務を適正に行うことができない者）

第九号の二 法第八号第五号の国土交通省令で定める者は、精神の機能の障害により評価の業務を適正に行うに当たつて必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行うことができない者とする。

（登録住宅性能評価機関登録簿の記載事項）

第十条 法第九号第二項第六号の国土交通省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

一 登録住宅性能評価機関が法人である場合は、役員の氏名

二 評価の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

三 登録住宅性能評価機関が評価の業務を行う区域（公示事項）

第十一条 法第十号第一項の国土交通省令で定める事項は、前条各号に掲げる事項とする。

（登録住宅性能評価機関に係る事項の変更の届出）

第十二条 登録住宅性能評価機関は、法第十号第二項の規定により法第九条第二項第二号又は第四号から第六号までに掲げる事項を変更しようとするときは、別記第十四号様式の登録住宅性能評価機関変更届出書に第八号各号に掲げる書類のうち変更に係るものを添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

（登録住宅性能評価機関に係る登録の更新）

第十三条 登録住宅性能評価機関は、法第十一条第一項の登録の更新を受けようとするときは、別記第十五号様式の登録住宅性能評価機関登録更新申請書に第八号各号に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

2 第九条及び第十条の規定は、登録住宅性能評価機関が登録の更新を行う場合について準用する。

（承継の届出）

第十四条 法第十二号第二項の規定により登録住宅性能評価機関の地位の承継の届出をしようとする者は、別記第十六号様式の登録住宅性能評価事業承継届出書に次に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

- 一 法第十二条第一項の規定により登録住宅性能評価機関の事業の全部を譲り受けて登録住宅性能評価機関の地位を承継した者にあつては、別記第十七号様式の登録住宅性能評価機関事業譲渡証明書及び事業の全部の譲渡しがあつたことを証する書面
- 二 法第十二条第一項の規定により登録住宅性能評価機関の地位を承継した相続人であつて、二以上の相続人の全員の同意により選定されたものにあつては、別記第十八号様式の登録住宅性能評価機関事業相続同意証明書及び戸籍謄本
- 三 法第十二条第一項の規定により登録住宅性能評価機関の地位を承継した相続人であつて、前号の相続人以外のものにあつては、別記第十九号様式の登録住宅性能評価機関事業相続証明書及び戸籍謄本
- 四 法第十二条第一項の規定により合併によつて登録住宅性能評価機関の地位を承継した法人にあつては、その法人の登記事項証明書
- 五 法第十二条第一項の規定により分割によつて登録住宅性能評価機関の地位を承継した法人にあつては、別記第二十号様式の登録住宅性能評価機関事業承継証明書、事業の全部の承継があつたことを証する書面及びその法人の登記事項証明書

（評価の業務の実施基準）

第十五条 法第十五条第二項の国土交通省令で定める基準は、次に掲げるとおりとする。

- 一 次に掲げる方法により住宅性能評価を行うこと。
 - イ 設計住宅性能評価は、評価方法基準に従い、設計住宅性能評価申請書及びその添付図書をもつて行うこと。
 - ロ 新築住宅に係る建設住宅性能評価は、次に定める方法により行うこと。
 - （1）建設住宅性能評価申請書及びその添付図書、施工状況報告書並びに第六条第五項の図書をもつて行うこと。
 - （2）検査は、評価方法基準に従い、検査時期に行うこと。
 - ハ 既存住宅に係る建設住宅性能評価は、次に定める方法により行うこと。
 - （1）建設住宅性能評価の実施上の必要に応じ、平面図、立面図、断面図、配置図、構造計算書その他の図書を作成すること。
 - （2）建設住宅性能評価申請書及びその添付図書並びに（1）に規定する図書をもつて行うこと。
- （3）検査は、評価方法基準に従い、行うこと。
- 二 法第六条の二第三項及び第四項の規定による確認は、評価員（次の表の各号の上欄に掲げる確認を行う住宅の区分に応じ、それぞれ当該各号の下欄に掲げる者に該当するものに限る。）が、確認申請書及びその添付図書をもつて行うこと。

確認を行う住宅	評価員
一 法第七条第二項第一号に掲げる住宅	一級建築士又はこれと同等以上の知識及び経験を有する者
二 法第七条第二項第二号に掲げる住宅	前号の下欄に掲げる者又は建築士法（昭和二十五年法律二百二号）第二条第三項に規定する二級建築士若しくはこれと同等以上の知識及び経験を有する者
三 法第七条第二項第三号に掲げる住宅	前号の下欄に掲げる者又は建築士法第二条第四項に規定する木造建築士若しくはこれと同等以上の知識及び経験を有する者

三 登録住宅性能評価機関が評価の申請又は法第六条の二第一項の規定による求めを自ら行った場合その他の場合であつて、評価の業務（法第六条の二第三項又は第四項の規定による確認の業務を含む。第六号、次条第三項及び第四項、第二十条第一項及び第三項並びに第二十一条第一項において同じ。）の公正な実施に支障を及ぼすおそれがあるものとして国土交通大臣が定める場合においては、これらの申請に係る住宅性能評価又は法第六条の二第三項若しくは第四項の規定による確認を行わないこと。

- 四 評価の業務を行う部門の専任の管理者は、登録住宅性能評価機関の役員又は当該部門を管理する上で必要な権限を有する者であること。
- 五 登録住宅性能評価機関は、評価員の資質の向上のために、その研修の機会を確保すること。
- 六 評価の業務に関し支払うことのある損害賠償のため保険契約を締結していること。

（評価業務規程）

第十六条 登録住宅性能評価機関は、法第十六条第一項前段の規定により評価業務規程の届出をしようとするときは、別記第二十一号様式の登録住宅性能評価機関評価業務規程届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

二 登録住宅性能評価機関は、法第十六条第一項後段の規定により評価業務規程の変更の届出をしようとするときは、別記第二十二号様式の登録住宅性能評価機関評価業務規程変更届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

3 法第十六条第二項の国土交通省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

- 一 評価の業務を行う時間及び休日に関する事項
- 二 事務所の所在地及びその事務所が評価の業務を行う区域に関する事項
- 三 住宅性能評価及び法第六条の二第三項又は第四項の規定による確認を行う住宅の種類その他評価の業務の範囲に関する事項
- 四 評価の業務の実施の方法に関する事項
- 五 評価の業務に関する料金及びその収納の方法に関する事項
- 六 評価員の選任及び解任に関する事項
- 七 評価の業務に関する秘密の保持に関する事項
- 八 評価員の配置及び教育に関する事項
- 九 住宅性能評価を行う際に携帯する身分証及びその携帯に関する事項
- 十 評価の業務の実施及び管理の体制に関する事項
- 十一 第二十条第三項に規定する帳簿その他の評価の業務に関する書類の管理に関する事項
- 十二 財務諸表等（法第十八条第一項に規定する財務諸表等をいう。以下この号において同じ。）の備付け及び財務諸表等に係る同条第二項各号に掲げる請求の受付に関する事項
- 十三 評価の業務に関する公正の確保に関する事項
- 十四 その他評価の業務の実施に関し必要な事項
- 4 登録住宅性能評価機関は、評価業務規程を評価の業務を行うすべての事務所で業務時間内に公衆に閲覧させるとともに、インターネットを利用して閲覧に供する方法により公表するものとする。

（揭示等の記載事項等）

第十七条 法第十七条の国土交通省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

- 一 登録番号
- 二 登録の有効期間
- 三 登録住宅性能評価機関の氏名又は名称
- 四 登録住宅性能評価機関が法人である場合においては、代表者の氏名
- 五 主たる事務所の所在地及び電話番号
- 六 実施する住宅性能評価の種類
- 七 住宅性能評価を行う住宅の種類
- 八 その事務所が住宅性能評価を行う区域
- 九 法第六条の二第三項又は第四項の規定による確認を行う場合にあっては、確認を行う住宅の種類
- 十 法第六条の二第三項又は第四項の規定による確認を行う場合にあっては、その事務所が確認を行う区域
- 2 法第十七条の規定により登録住宅性能評価機関が行う揭示及び公衆の閲覧は、別記第二十三号様式によるものとする。

3 法第十七条の規定による公衆の閲覧は、登録住宅性能評価機関のウェブサイトへの掲載により行うものとする。

(電磁的記録に記録された事項を表示する方法)

第十八条 法第十八条第二項第三号の国土交通省令で定める方法は、当該電磁的記録に記録された事項を紙面又は出力装置の映像面に表示する方法とする。

(電磁的記録に記録された事項を提供するための電磁的方法)

第十九条 法第十八条第二項第四号の国土交通省令で定める電磁的方法は、次に掲げるもののうち、登録住宅性能評価機関が定めるものとする。

一 登録住宅性能評価機関の使用に係る電子計算機と法第十八条第二項第四号に掲げる請求をした者(以下この条において「請求者」という。)の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用する方法であつて、当該電気通信回線を通じて情報が送信され、請求者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該情報が記録されるもの

二 磁気ディスクをもって調製するファイルに情報を記録したものを請求者に交付する方法

2 前項各号に掲げる方法は、請求者がファイルへの記録を出力することによる書面を作成できるものでなければならない。

(帳簿)

第二十条 法第十九条第一項の評価の業務に関する事項で国土交通省令で定めるものは、次に掲げるものとする。

一 住宅性能評価の申請を受け付けた年月日

二 法第六条の第二項の規定による確認の求めを受けた年月日

三 検査を行った年月日

四 住宅性能評価書に記載した事項のうち、第一条各号(第十二号及び第十三号を除く。)に掲げるもの及び法第六条の第二項第四号の規定による確認の結果

五 確認書に記載した事項のうち、次に掲げるもの

イ 申請者の氏名又は名称

ロ 確認を行った住宅の所在地及び名称

ハ 確認を行った住宅の階数、延べ面積及び構造

ニ 確認を行った住宅の建設工事の種別

ホ 確認を行った評価員の氏名

ヘ 確認書の交付番号

ト 確認書を交付した年月日

チ 法第六条の第二項第三号の規定による確認の結果

六 第四条第二項又は第七条第二項の規定により通知書を交付した年月日及びその通知書に記載した事項

七 当該住宅に係る評価の業務に関する料金の額

2 前項各号に掲げる事項が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ登録住宅性能評価機関において電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該記録をもつて法第十九条第一項の帳簿(次項において単に「帳簿」という。)への記載に代えることができる。

3 登録住宅性能評価機関は、帳簿(前項の規定による記録が行われた同項のファイル又は磁気ディスクを含む。第二十三条において同じ。)を、評価の業務の全部を廃止するまで保存しなければならない。

(書類の保存)

第二十一条 法第十九条第二項の評価の業務に関する書類で国土交通省令で定めるものは、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定めるものとする。

一 設計住宅性能評価 設計住宅性能評価申請書及びその添付図書

二 新築住宅に係る建設住宅性能評価 建設住宅性能評価申請書及びその添付図書、施工状況報告書並びに第六条第五項の図書(住宅性能評価に要したものに限る。)並びに同条第七項に規定する検査報告書の写し

三 既存住宅に係る建設住宅性能評価 建設住宅性能評価申請書及びその添付図書並びに建設住宅性能評価の実施上の必要に応じて作成した平面図、立面図、断面図、配置図、構造計算書その他の図書

四 法第六条の第二項第三号の規定による確認 確認申請書、その添付図書及び確認書の写し

2 前項各号に掲げる書類が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ登録住宅性能評価機関において電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスクをもつて同項各号に掲げる書類に代えることができる。

3 登録住宅性能評価機関は、第一項各号に掲げる書類(前項の規定による記録が行われた同項のファイル又は磁気ディスクを含む。第二十三条において単に「書類」という。)を、設計住宅性能評価に要したもの(当該登録住宅性能評価機関が行った建設住宅性能評価に要したものと同一のものを除く。)にあつては設計住宅性能評価書を交付した日から五年間、建設住宅性能評価に要したものにあつては建設住宅性能評価書を交付した日から二十年間、法第六条の第二項又は第四項の規定による確認に要したものと及び確認書の写しにあつては確認書又は住宅性能評価書を交付した日から五年間、保存しなければならない。

(登録住宅性能評価機関に係る業務の休業止の届出)

第二十二条 登録住宅性能評価機関は、法第二十三条第一項の規定により評価の業務の全部又は一部を休止し、又は廃止しようとするときは、別記第二十四号様式の登録住宅性能評価機関業務休業止届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

(業務の廃止等に係る書類の引継ぎ)

第二十三条 登録住宅性能評価機関は、法第二十三条第一項の規定により評価の業務の全部を廃止したとき又は法第二十四条第一項若しくは第二項の規定により登録を取り消されたときは、当該業務に係る帳簿及び書類を住宅紛争処理支援センターに引き継がなければならない。

第三節 登録講習機関

(登録講習機関に係る登録の申請)

第二十四条 法第二十五条第一項に規定する登録を受けようとする者は、別記第二十五号様式の登録講習機関登録申請書に次に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

一 定款又は寄附行為及び登記事項証明書

二 申請の日の属する事業年度の前事業年度における財産目録及び貸借対照表。ただし、申請の日の属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録とする。

三 申請に係る意思の決定を証する書類

四 申請者(法人である場合はその役員)の氏名及び略歴(申請者が住宅関連事業者又は登録住宅性能評価機関(以下この号において「住宅関連事業者等」という。)の役員又は職員(過去二年間に当該住宅関連事業者等の役員又は職員であった者を含む。))である場合には、その旨を含む。)を記載した書類

五 主要な株主の構成を記載した書類

六 組織及び運営に関する事項(講習の業務以外の業務を行っている場合は、当該業務の種類及び概要)を記載した書類

七 申請者が法第八条第一号及び第二号に規定する者に該当しない旨の市町村の長の証明書

八 申請者が法第八条第三号及び法第二十六条第二号から第四号までに該当しない旨を誓約する書面

九 法第二十七条第一項第一号の住宅性能評価に関する実務に関する科目を担当する講師が同項

第二号に掲げる基準に適合していることを証する書類

十 その他参考となる事項を記載した書類

（心身の故障により講習の業務を適正に行うことができない者）
第二十四条の二 法第二十六条第三号の国土交通省令で定める者は、精神の機能の障害により講習の業務を適正に行うに当たって必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行うことができない者とする。

（登録講習機関登録簿の記載事項）

第二十五条 法第二十七条第二項第四号の国土交通省令で定める事項は、役員の氏名（登録講習機関が法人である場合に限る。）とする。

（公示事項）

第二十六条 法第二十五条第二項において準用する法第十条第一項の国土交通省令で定める事項は、前条に規定する事項とする。

（登録講習機関に係る事項の変更の届出）

第二十七条 登録講習機関は、法第二十五条第二項において準用する法第十条第二項の規定により法第二十七条第二項第二号から第四号までに掲げる事項を変更しようとするときは、別記第二十六号様式の登録講習機関変更届出書に第二十四条各号に掲げる書類のうち変更に係るものを添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

（登録講習機関に係る登録の更新）

第二十八条 登録講習機関は、法第二十五条第二項において準用する法第十一条第一項の登録の更新を受けようとするときは、別記第二十七号様式の登録講習機関登録更新申請書に第二十四条各号に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

2 第二十五条の規定は、登録講習機関が登録の更新を行う場合について準用する。

（承継の届出）

第二十九条 法第二十五条第二項において準用する法第十二条第二項の規定により登録講習機関の地位の承継の届出をしようとする者は、別記第二十八号様式の登録講習機関事業承継届出書に次に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

一 法第二十五条第二項において準用する法第十二条第一項の規定により登録講習機関の事業の全部を譲り受けて登録講習機関の地位を承継した者にあつては、別記第二十九号様式の登録講習機関事業譲渡証明書及び事業の全部の譲渡しがあつたことを証する書面

二 法第二十五条第二項において準用する法第十二条第一項の規定により登録講習機関の地位を承継した相続人であつて、二以上の相続人の全員の同意により選定されたものにあつては、別記第三十号様式の登録講習機関事業相続同意証明書及び戸籍謄本

三 法第二十五条第二項において準用する法第十二条第一項の規定により登録講習機関の地位を承継した相続人であつて、前号の相続人以外のものにあつては、別記第三十一号様式の登録講習機関事業相続証明書及び戸籍謄本

四 法第二十五条第二項において準用する法第十二条第一項の規定により合併によつて登録講習機関の地位を承継した法人にあつては、その法人の登記事項証明書

五 法第二十五条第二項において準用する法第十二条第一項の規定により分割によつて登録講習機関の地位を承継した法人にあつては、別記第三十二号様式の登録講習機関事業承継証明書、事業の全部の承継があつたことを証する書面及びその法人の登記事項証明書

（講習の業務の実施基準）

第三十条 法第二十五条第二項において準用する法第十五条第二項の国土交通省令で定める基準は、次に掲げるとおりとする。

一 講習を毎年一回以上行うこと。

二 講習は講義及び修了検査により行い、講習時間の合計はおおむね二十七時間とし、講習科目ごとの講習時間は国土交通大臣が定める時間とすること。

三 講習科目に応じ国土交通大臣が定める事項を含む適切な内容の教材を用いること。

四 講師は講義の内容に関する受講者の質問に対し、講義中に適切に応答すること。

五 修了検査は、講義の終了後に行い、評価員として必要な知識及び技能を修得したかどうかを判定できるものであること。

六 講習の課程を修了した者（以下この節において「講習修了者」という。）に対して、別記第三十三号様式の修了証（以下この節において「修了証」という。）を交付すること。

七 不正な受講を防止するための措置を講じること。

八 講習を実施する日時、場所その他講習の実施に関し必要な事項及び当該講習が登録講習機関として行う講習である旨を公示すること。

九 講習の業務以外の業務を行う場合にあつては、当該業務が登録講習機関として行う講習の業務であると誤認されるおそれがある表示その他の行為をしないこと。

（講習業務規程）

第三十一条 登録講習機関は、法第二十五条第二項において準用する法第十六条第一項前段の規定により講習業務規程の届出をしようとするときは、別記第三十四号様式の登録講習機関講習業務規程届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

2 登録講習機関は、法第二十五条第二項において準用する法第十六条第一項後段の規定により講習業務規程の変更の届出をしようとするときは、別記第三十五号様式の登録講習機関講習業務規程変更届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

3 法第二十五条第二項において準用する法第十六条第二項の国土交通省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

一 講習の業務を行う時間及び休日に関する事項

二 講習の業務を行う事務所及び講習の実施場所に関する事項

三 講習の実施に係る公示の方法に関する事項

四 講習の受講の申請に関する事項

五 講習の業務の実施の方法に関する事項

六 講習の内容及び時間に関する事項

七 講習に用いる教材に関する事項

八 修了検査の方法に関する事項

九 修了証の交付に関する事項

十 講習の業務に関する料金及びその収納の方法に関する事項

十一 第三十四条第三項に規定する帳簿その他の講習の業務に関する書類の管理に関する事項

十二 財務諸表等（法第二十五条第二項において準用する法第十八条第一項に規定する財務諸表等）をいう。以下この号において同じ。）の備付け及び財務諸表等に係る法第二十五条第二項において準用する法第十八条第二項各号に掲げる請求の受付に関する事項

十三 講習の業務に関する公正の確保に関する事項

十四 その他講習の業務の実施に関し必要な事項

4 登録講習機関は、講習業務規程を講習の業務を行うすべての事務所業務時間内に公衆に閲覧させるとともに、インターネットを利用して閲覧に供する方法により公表するものとする。

（電磁的記録に記録された事項を表示する方法）

第三十二条 法第二十五条第二項において準用する法第十八条第二項第三号の国土交通省令で定める方法は、当該電磁的記録に記録された事項を紙面又は出力装置の映像面に表示する方法とする。

（電磁的記録に記録された事項を提供するための電磁的方法）

第三十三条 法第二十五条第二項において準用する法第十八条第四号の国土交通省令で定める電磁的方法は、次に掲げるもののうち、登録講習機関が定めるものとする。

一 登録講習機関の使用に係る電子計算機と法第二十五条第二項において準用する法第十八条第二項第四号に掲げる請求をした者（以下この条において「請求者」という。）の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用する方法であつて、当該電気通信回線を通じて情報が送信され、請求者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該情報が記録されるもの

二 磁気ディスクをもって調製するファイルに情報を記録したものを請求者に交付する方法

2 前項各号に掲げる方法は、請求者がファイルへの記録を出力することによる書面を作成できるものでなければならない。

（帳簿の備付け等）

第三十四条 法第二十五条第二項において準用する法第十九条第一項の講習の業務に関する事項で国土交通省令で定めるものは、次に掲げるものとする。

- 一 講習の実施年月日
 - 二 講習の実施場所
 - 三 講習を行った講師の氏名並びに当該講習において担当した講習科目及びその時間
 - 四 受講者の氏名、生年月日及び住所
 - 五 講習修了者にあつては、前号に掲げる事項のほか、修了証の交付の年月日及び修了証の番号
- 2 前項各号に掲げる事項が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ登録講習機関において電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該記録をもって法第二十五条第二項において準用する法第十九条第一項の帳簿（次項において単に「帳簿」という。）への記載に代えることができる。
- 3 登録講習機関は、帳簿（前項の規定による記録が行われた同項のファイル又は磁気ディスクを含む。第三十七条第二号において同じ。）を、講習の業務の全部を廃止するまで保存しなければならない。
- 4 登録講習機関は、講習に用いた教材、修了審査に用いた問題用紙及び答案用紙並びに修了証の写しを講習を実施した日から三年間保存しなければならない。

（登録講習機関に係る業務の休廃止の届出）

第三十五条 登録講習機関は、法第二十五条第二項において準用する法第二十三条第一項の規定により講習の業務の全部又は一部を休止し、又は廃止しようとするときは、別記第三十六号様式の登録講習機関業務休廃止届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

（講習の実施結果の報告）

第三十六条 登録講習機関は、講習を行ったときは、国土交通大臣の定める期日までに次に掲げる事項を記載した報告書を国土交通大臣に提出しなければならない。

- 一 講習の実施年月日
- 二 講習の実施場所
- 三 修了者数
- 2 前項の報告書には、第三十四条第一項第四号及び第五号に掲げる事項を記載した修了者一覧表並びに講習に用いた教材及び修了審査に用いた問題用紙を添えなければならない。
- 3 報告書等（第一項の報告書及び前項の添付書類をいう。以下この項において同じ。）の提出については、当該報告書等が電磁的記録で作成されている場合には、次に掲げる電磁的方法をもって行うことができる。

一 登録講習機関の使用に係る電子計算機と国土交通大臣の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用する方法であつて、当該電気通信回線を通じて情報が送信され、国土交通大臣の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該情報が記録されるもの

二 磁気ディスクをもって調製するファイルに情報を記録したものを国土交通大臣に交付する方法

（講習の業務の引継ぎ）

第三十七条 登録講習機関は、法第二十九条第三項に規定する場合には、次に掲げる行為をしなければならない。

- 一 講習の業務を国土交通大臣に引き継ぐこと。
- 二 講習の業務に関する帳簿を国土交通大臣に引き継ぐこと。
- 三 その他国土交通大臣が必要と認める行為

（国土交通大臣が行う講習の手数料の納付の方法）

第三十八条 法第三十条の規定による手数料の納付は、当該手数料の金額に相当する額の収入印紙をもって行うものとする。ただし、印紙をもって納め難い事由があるときは、現金をもってすることができ。

（国土交通大臣が行う講習の手数料の額）

第三十九条 法第三十条の国土交通省令で定める手数料の額は、九万九千六百円とする。

第二章 住宅型式性能認定等

第二節 住宅型式性能認定
（住宅型式性能認定の申請）

第四十条 住宅型式性能認定の申請をしようとする者は、別記第三十七号様式の住宅型式性能認定申請書（以下単に「住宅型式性能認定申請書」という。）に住宅型式性能認定のために必要な図書で国土交通大臣が定めるもの（次項において「住宅型式性能認定申請添付図書」という。）を添えて、これを登録住宅型式性能認定等機関に提出しなければならない。

2 認定特別評価方法を用いて評価されるべき住宅に係る住宅型式性能認定の申請にあつては、住宅型式性能認定申請添付図書のほか、住宅型式性能認定申請書に第八十条第一項に規定する特別評価方法認定書の写しを添えなければならない（登録住宅型式性能認定等機関が、当該特別評価方法認定書の写しを有していないことその他の理由により、提出を求めるときに限り、住宅型式性能認定申請添付図書に明示すべき事項のうち評価方法基準（当該認定特別評価方法により代えられる方法に限る。）に従つて評価されるべき事項を明示することを要しない。

3 認定特別評価方法を用いて評価されるべき住宅に係る住宅型式性能認定の申請にあつては、住宅型式性能認定申請添付図書に明示すべき事項のうち評価方法基準（当該認定特別評価方法により代えられる方法に限る。）に従つて評価されるべき事項を明示することを要しない。

（住宅型式性能認定書の交付等）

第四十一条 登録住宅型式性能認定等機関は、住宅型式性能認定をしたときは、別記第三十八号様式の住宅型式性能認定書（以下単に「住宅型式性能認定書」という。）を申請者に交付しなければならない。

2 登録住宅型式性能認定等機関は、住宅型式性能認定をしないときは、別記第三十九号様式の通知書を申請者に交付しなければならない。

3 住宅型式性能認定書の交付を受けた者は、住宅型式性能認定書を滅失し、汚損し、又は破損したときは、住宅型式性能認定書の再交付を申請することができる。

（住宅型式性能認定の公示）

第四十二条 法第三十一条第三項の規定による公示は、次に掲げる事項について行うものとする。

- 一 住宅型式性能認定書の交付を受けた者の氏名又は名称及び住所
- 二 認定を受けた型式に係る住宅又はその部分の種類
- 三 認定を受けた型式に係る性能表示事項
- 四 住宅に係る住宅型式性能認定にあつては、当該認定を受けた型式の性能
- 五 認定番号
- 六 認定年月日

第二節 認証型式住宅部分等製造者

（型式住宅部分等製造者の認証）

第四十三条 法第三十三条第一項の認証（以下単に「認証」という。）の申請をしようとする者は、別記第四十号様式の型式住宅部分等製造者認証申請書（以下単に「型式住宅部分等製造者認証申請書」という。）に住宅型式性能認定書の写しその他の認証のために必要な図書で国土交通大臣が定めるもの（以下「型式住宅部分等製造者認証申請添付図書」という。）を添えて、これを登録住宅型式性能認定等機関に提出しなければならない。

（型式住宅部分等製造者認証申請書に記載すべき事項）

第四十四条 法第三十三条第二項の国土交通省令で定める申請書に記載すべき事項は、次に掲げるものとする。

- 一 認証を申請しようとする者の氏名又は名称及び住所
- 二 型式住宅部分等の種類
- 三 型式住宅部分等に係る住宅型式性能認定の認定番号及び認定年月日
- 四 工場その他の事業場（以下「工場等」という。）の名称及び所在地
- 五 技術的生産条件に関する事項

2 前項第五号の事項には、法第三十五条第二号の国土交通大臣が定める技術的基準に適合していることを証するものとして、次に掲げる事項を記載するものとする。

一 申請に係る工場等に関する事項

イ 沿革

ロ 経営指針（品質管理に関する事項を含むものとする。）

ハ 配置図

ニ 従業員数

ホ 組織図（全社的なものを含み、かつ、品質管理推進責任者の位置付けを明確にすること。）

ヘ 就業者に対する教育訓練等の概要

二 申請に係る型式住宅部分等の生産に関する事項

イ 当該型式住宅部分等又はそれと類似のものに関する製造経歴

ロ 生産設備能力及び今後の生産計画

ハ 社内規格一覧表

ニ 製品の品質特性及び品質管理の概要（保管に関するものを含む。）

ホ 主要資材の名称、製造業者の氏名又は名称及び品質並びに品質確保の方法（保管に関するものを含む。）の概要

ヘ 製造工程の概要図

ト 工程中における品質管理の概要

チ 主要製造設備及びその管理の概要

リ 主要検査設備及びその管理の概要

ヌ 外注状況及び外注管理（製造若しくは検査又は設備の管理の一部を外部に行わせている場合における当該発注に係る管理をいう。以下同じ。）の概要

ル 苦情処理の概要

ヲ 監査の対象、監査の時期、監査事項その他監査の実施の概要

三 申請に係る型式住宅部分等に法第三十九条第一項の特別な標章を付する場合にあつては、その表示方式に関する事項

四 申請に係る型式住宅部分等に係る品質管理推進責任者に関する事項

イ 氏名及び職名

ロ 申請に係る型式住宅部分等の製造に必要な技術に関する実務経験

ハ 品質管理に関する実務経験及び専門知識の修得状況

三 前項の規定にかかわらず、製造設備、検査設備、検査方法、品質管理方法その他品質保持に必要な技術的生産条件が、日本産業規格Q9001の規定に適合していることを証する書面を添付する場合にあつては、前項第一号ロ及びヘに掲げる事項を記載することを要しない。

（型式住宅部分等製造者認証書の交付等）

第四十五条 登録住宅型式性能認定等機関は、認証をしたときは、別記第四十一号様式の型式住宅部分等製造者認証書（以下単に「型式住宅部分等製造者認証書」という。）を申請者に交付しなければならない。

二 登録住宅型式性能認定等機関は、認証をしないときは、別記第四十二号様式の通知書を申請者に交付しなければならない。

三 型式住宅部分等製造者認証書の交付を受けた者は、型式住宅部分等製造者認証書を滅失し、汚損し、又は破損したときは、型式住宅部分等製造者認証書の再交付を申請することができる。

（認証に係る公示）

第四十六条 法第三十三条第三項の規定による公示は、次に掲げる事項について行うものとする。

一 認証を受けた者の氏名又は名称及び住所

二 認証を受けた型式住宅部分等の種類

三 認証を受けた型式住宅部分等に係る性能表示事項

四 住宅である型式住宅部分等にあつては、当該認証を受けた型式住宅部分等の性能

五 認証番号
六 認証年月日

（認証型式住宅部分等製造者に係る認証の更新）

第四十七条 認証型式住宅部分等製造者は、法第三十六条第一項の認証の更新（以下単に「認証の更新」という。）を受けようとするときは、別記第四十三号様式の認証型式住宅部分等製造者更新申請書（以下単に「認証型式住宅部分等製造者更新申請書」という。）に型式住宅部分等製造者認証申請添付図書を添えて、これを登録住宅型式性能認定等機関に提出しなければならない。

二 第四十四条及び第四十五条の規定は、認証型式住宅部分等製造者に係る認証の更新について準用する。この場合において、第四十四条第一項中「型式住宅部分等の種類」とあるのは「当該認証型式住宅部分等の認証番号及び認証年月日」と、同条第二項中「法第三十五条第二号」とあるのは「法第三十六条第二項において準用する法第三十五条第二号」と読み替えるものとする。

（認証型式住宅部分等製造者に係る変更の届出）

第四十八条 認証型式住宅部分等製造者は、氏名若しくは名称、住所又は第四十四条第二項各号に掲げる事項に変更（型式住宅部分等の種類の変更、工場等の移転による所在地の変更その他の当該認証の効力が失われることとなる変更並びに第四十四条第二項第一号イ及びニに掲げる事項に係る変更を除く。）があつたときは、別記第四十四号様式の認証型式住宅部分等製造者変更届出書（以下単に「認証型式住宅部分等製造者変更届出書」という。）を登録住宅型式性能認定等機関に提出しなければならない。

（認証型式住宅部分等製造者に係る製造の廃止の届出）

第四十九条 認証型式住宅部分等製造者は、当該認証に係る型式住宅部分等の製造の事業を廃止しようとするときは、登録住宅型式性能認定等機関に別記第四十五号様式の製造事業廃止届出書により届け出なければならない。

二 登録住宅型式性能認定等機関は、前項の規定による届出があつたときは、次に掲げる事項について公示しなければならない。

一 認証型式住宅部分等製造者の氏名又は名称及び住所

二 事業の廃止に係る認証型式住宅部分等の種類

三 認証番号

四 事業を廃止する年月日

（型式適合義務が免除される場合）

第五十条 法第三十八条第一項の国土交通省令で定める場合は、次に掲げる場合とする。

一 本邦において外国に輸出するため当該型式住宅部分等の製造をする場合

二 試験的に当該型式住宅部分等の製造をする場合

三 住宅性能評価を行うことのできる住宅以外の建築物に用いるため当該型式住宅部分等の製造をする場合

（検査方法等）

第五十一条 法第三十八条第二項の規定による検査並びにその検査記録の作成及び保存は、次に掲げるところにより行うものとする。

一 法第三十五条第二号の国土交通大臣が定める技術的基準に定められた検査を行うこと。

二 製造される型式住宅部分等が法第三十五条第二号の国土交通大臣が定める技術的基準に適合することを確認できる検査手順書を作成し、それを確実に履行すること。

三 検査手順書に定めるすべての事項を終了し、製造される型式住宅部分等がその認証に係る型式に適合することを確認するまで型式住宅部分等を出荷しないこと。

四 認証型式住宅部分等ごとに次に掲げる事項を記載した検査記録簿を作成すること。

イ 検査を行った型式住宅部分等の概要

ロ 検査を行った年月日及び場所

ハ 検査を実施した者の氏名

ニ 検査を行った型式住宅部分等の数量

ホ 検査の方法

検査の結果

五 前号の検査記録簿（次項の規定による記録が行われた同項のファイル又は磁気ディスクを含む）は、当該型式住宅部分等の製造をした工場等の所在地において、記載の日から起算して五年以上保存すること。

2 前項第四号の検査記録簿が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスクをもって同号の検査記録簿に代えることができる。

（特別な標準）

第五十二条 法第三十九条第一項の国土交通省令で定める方式による特別な標準は、別記第四十六号様式に定める標準とし、認証型式住宅部分等製造者がその認証に係る型式住宅部分等の見やすい箇所が付するものとする。

（認証型式住宅部分等に関する住宅性能評価の特例）

第五十三条 法第四十条第二項の規定による確認は、建設住宅性能評価申請書及びその添付図書、施工状況報告書並びに第六条第五項の図書の審査により行うものとする。

（特別な標準の禁止に係る公示）

第五十四条 国土交通大臣は、法第四十三条第一項又は第二項の規定により特別な標準を付することを禁止したときは、次に掲げる事項を公示しなければならない。

- 一 特別な標準を付することを禁止した認証型式住宅部分等製造者の氏名又は名称及び住所
- 二 特別な標準を付することを禁止した型式住宅部分等の種類
- 三 認証番号
- 四 特別な標準を付することを禁止した年月日及び禁止の期間

（旅費の額）

第五十五条 住宅の品質確保の促進等に関する法律施行令（以下「令」という。）第三条の旅費の額に相当する額（以下「旅費相当額」という。）は、国家公務員等の旅費に関する法律（昭和二十五年法律第百十四号。以下「旅費法」という。）の規定により支給すべきこととなる旅費の額とする。この場合において、当該検査に係る工場等の所在地に出張をする職員は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和二十五年法律第九十五号）第六条第一項第一号イに規定する行政職俸給表（一）による職務の級が六級である者であるものとしてその旅費の額を計算するものとする。

（在勤官署の所在地）

第五十六条 旅費相当額を計算する場合において、当該検査に係る工場等の所在地に出張をする職員の旅費法第二条第一項第六号の在勤官署の所在地は、東京都千代田区霞が関二丁目一番三号とする。

（旅費の額の計算に係る細目）

- 第五十七条 旅費法第六条第一項の支度料は、旅費相当額に算入しない。
- 2 検査を実施する日数は、当該検査に係る工場ごとに三日として旅費相当額を計算する。
- 3 旅費法第六条第一項の旅行雑費は、一万円として旅費相当額を計算する。
- 4 国土交通大臣が、旅費法第四十六条第一項の規定により、実費を超えることとなる部分又は必要としない部分の旅費を支給しないときは、当該部分に相当する額は、旅費相当額に算入しない。

第三節 登録住宅型式性能認定等機関

（登録住宅型式性能認定等機関に係る登録の申請）

第五十八条 法第四十四条第一項に規定する登録を受けようとする者は、別記第四十七号様式の登録住宅型式性能認定等機関登録申請書に次に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

一 定款又は寄附行為及び登記事項証明書

二 申請の日の属する事業年度の前事業年度における財産目録及び貸借対照表。ただし、申請の日の属する事業年度に設立された法人にあっては、その設立時における財産目録とする。

三 申請に係る意思の決定を証する書類

四 申請者（法人である場合はその役員）の氏名及び略歴（申請者が住宅関連事業者の役員又は職員（過去二年間に当該住宅関連事業者の役員又は職員であった者を含む。）である場合には、その旨を含む。）を記載した書類

五 主要な株主の構成を記載した書類

六 組織及び運営に関する事項（認定等の業務以外の業務を行っている場合は、当該業務の種類及び概要）を記載した書類

七 申請者が法第八条第一号及び第二号に規定する者に該当しない旨の市町村の長の証明書
八 申請者が法第八条第三号及び法第四十五条第二号から第四号までに該当しない旨を誓約する書面

九 認定等の業務を行う部門の専任の管理者の氏名及び略歴を記載した書類

十 認定員となるべき者の氏名及び略歴を記載した書類並びに当該者が法第四十七条各号に定める者であることを証する書類

十一 その他参考となる事項を記載した書類

（心身の故障により認定等の業務を適正に行うことができない者）

第五十八条の二 法第四十五条第三号の国土交通省令で定める者は、精神の機能の障害により認定等の業務を適正に行うに当たつて必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行うことができない者とする。

（登録住宅型式性能認定等機関登録簿の記載事項）

第五十九条 法第四十六条第二項第六号の国土交通省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

- 一 登録住宅型式性能認定等機関が法人である場合は、役員の氏名
- 二 認定等の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

（公示事項）

第六十条 法第四十四条第三項において準用する法第十条第一項の国土交通省令で定める事項は、前条各号に掲げる事項とする。

（登録住宅型式性能認定等機関に係る事項の変更の届出）

第六十一条 登録住宅型式性能認定等機関は、法第四十四条第三項において準用する法第十条第二項の規定により法第四十六条第二項第二号又は第四号から第六号までに掲げる事項を変更しようとするときは、別記第四十八号様式の登録住宅型式性能認定等機関変更届出書に第五十八条各号に掲げる書類のうち変更に係るものを添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。同条ただし書の規定は、この場合について準用する。

（登録住宅型式性能認定等機関に係る登録の更新）

第六十二条 登録住宅型式性能認定等機関は、法第四十四条第三項において準用する法第十一条第一項の登録の更新を受けようとするときは、別記第四十九号様式の登録住宅型式性能認定等機関登録更新申請書に第五十八条各号に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。同条ただし書の規定は、この場合について準用する。

2 第五十九条の規定は、登録住宅型式性能認定等機関が登録の更新を行う場合について準用する。

（承継の届出）

第六十三条 法第四十四条第三項において準用する法第十二条第二項の規定により登録住宅型式性能認定等機関の地位の承継の届出をしようとする者は、別記第五十号様式の登録住宅型式性能認定等機関事業承継届出書に次に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

一 法第四十四条第三項において準用する法第十二条第一項の規定により登録住宅型式性能認定等機関の事業の全部を譲り受けて登録住宅型式性能認定等機関の地位を承継した者にあつて

は、別記第五十一号様式の登録住宅型式性能認定等機関事業譲渡証明書及び事業の全部の譲渡しがあつたことを証する書面

二 法第四十四条第三項において準用する法第十二条第一項の規定により登録住宅型式性能認定等機関の地位を承継した相続人であつて、二以上の相続人の全員の同意により選定されたものにあつては、別記第五十二号様式の登録住宅型式性能認定等機関事業相続同意証明書及び戸籍謄本

三 法第四十四条第三項において準用する法第十二条第一項の規定により登録住宅型式性能認定等機関の地位を承継した相続人であつて、前号の相続人以外のものにあつては、別記第五十三号様式の登録住宅型式性能認定等機関事業相続証明書及び戸籍謄本

四 法第四十四条第三項において準用する法第十二条第一項の規定により合併によつて登録住宅型式性能認定等機関の地位を承継した法人にあつては、その法人の登記事項証明書

五 法第四十四条第三項において準用する法第十二条第一項の規定により分割によつて登録住宅型式性能認定等機関の地位を承継した法人にあつては、別記第五十四号様式の登録住宅型式性能認定等機関事業承継証明書、事業の全部の承継があつたことを証する書面及びその法人の登記事項証明書

(認定等の業務の実施基準)

第六十四条 法第四十四条第三項において準用する法第十五条第二項の国土交通省令で定める基準は、次に掲げるとおりとする。

一 認定等の方法は、次に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ次のイ又はロに定めるものとする。

イ 住宅型式性能認定を行う場合 次に定める方法に従い、認定員二名以上によつて行うこと。

(1) 住宅型式性能認定申請書及びその添付図書をもつて審査を行うこと。

(2) 審査を行うに際し、書類の記載事項に疑義があり、提出された書類のみでは当該型式が日本住宅性能表示基準に従つて表示すべき性能を有しているかどうかの判断ができないと認めるときは、追加の書類を求めて審査を行うこと。

(3) 住宅型式性能認定書には、住宅性能評価の申請において明示することを要しない事項を指定すること。

ロ 認証又は認証の更新を行う場合 次に定める方法に従い、認定員二名以上によつて行うこと。

(1) 型式住宅部分等製造者認証申請書又は認証型式住宅部分等製造者更新申請書及びその添付図書をもつて審査を行うこと。

(2) 審査を行うに際し、書類の記載事項に疑義があり、提出された書類のみでは法第三十五条各号（法第三十六条第二項において準用する場合を含む。）に掲げる基準に適合しているかどうかの判断ができないと認めるときは、追加の書類を求めて審査を行うこと。

(3) 第七十七条第二項第二号から第五号までに掲げる場合を除き、申請に係る工場等において実地を行うこと。

(4) 型式住宅部分等製造者認証書には、住宅性能評価の申請において明示することを要しない事項及び建設住宅性能評価において要しない検査を指定すること。

二 登録住宅型式性能認定等機関が認定等の申請を自ら行った場合その他の場合であつて、認定等の業務の公正な実施に支障を及ぼすおそれがあるものとして国土交通大臣が定める場合においては、これらの申請に係る認定等を行わないこと。

三 認定等の業務を行う部門の専任の管理者は、登録住宅型式性能認定等機関の役員又は当該部門を管理する上で必要な権限を有する者であること。

四 認定等の業務に関し支払うことのある損害賠償のため保険契約を締結していること。

(電磁的記録に記録された事項を表示する方法)

第六十五条 法第四十四条第三項において準用する法第十八条第二項第三号の国土交通省令で定める方法は、当該電磁的記録に記録された事項を紙面又は出力装置の映像面に表示する方法とする。

(電磁的記録に記録された事項を提供するための電磁的方法)

第六十六条 法第四十四条第三項において準用する法第十八条第四号の国土交通省令で定める電磁的方法は、次に掲げるもののうち、登録住宅型式性能認定等機関が定めるものとする。

一 登録住宅型式性能認定等機関の使用に係る電子計算機と法第四十四条第三項において準用する法第十八条第二項第四号に掲げる請求をした者（以下この条において「請求者」という。）の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用する方法であつて、当該電気通信回線を通じて情報が送信され、請求者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該情報が記録されるもの

二 磁気ディスクをもつて調製するファイルに情報を記録したものを請求者に交付する方法

二 前項各号に掲げる方法は、請求者がファイルへの記録を出力することによる書面を作成できるものでなければならない。

(帳簿)

第六十七条 法第四十四条第三項において準用する法第十九条第一項の認定等の業務に関する事項で国土交通省令で定めるものは、次に掲げるものとする。

一 認定等を申請した者の氏名又は名称及び住所

二 認定等の対象となるものの概要として次に定めるもの

イ 住宅型式性能認定にあつては、当該認定の申請に係る住宅又はその部分の種類、名称、構造、材料その他の概要

ロ 認証又は認証の更新にあつては、当該認証又は認証の更新の申請に係る工場等の所在地、名称その他の概要及び製造をする型式住宅部分等に係る住宅型式性能認定番号その他の概要

三 認定等の申請を受け付けた年月日

四 認証又は認証の更新にあつては、実地検査を行った年月日

五 住宅型式性能認定にあつては審査を行った認定員の氏名、認証又は認証の更新にあつては実地検査又は審査を行った認定員の氏名

六 審査の結果（認定等をしない場合にあつては、その理由を含む。）

七 住宅型式性能認定にあつては認定番号、認証にあつては認証番号、認証の更新にあつては更新に係る認証の認証番号

八 住宅型式性能認定書又は型式住宅部分等製造者認証書を交付した年月日（認定等をしない場合にあつては、その旨を通知した年月日）

九 法第五十三条第一項の規定による報告を行った年月日

十 認定等に係る公示を行った年月日

十一 第四十九条第二項の規定による公示を行った年月日及び同項第四号の年月日

十二 前項各号に掲げる事項が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ登録住宅型式性能認定等機関において電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該記録をもつて法第四十四条第三項において準用する法第十九条第一項の帳簿（次項において「帳簿」という。）への記載に代えることができる。

十三 登録住宅型式性能認定等機関は、帳簿（前項の規定による記録が行われた同項のファイル又は磁気ディスクを含む。第七十五条第二号において同じ。）は、認定等の業務の全部を廃止するまで保存しなければならない。

(書類の保存)

第六十八条 法第四十四条第三項において準用する法第十九条第二項の認定等の業務に関する書類で国土交通省令で定めるものは、次の各号に掲げる認定等の業務の区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるものとする。

一 住宅型式性能認定 住宅型式性能認定申請書及びその添付図書並びに住宅型式性能認定書の写しその他審査の結果を記載した書類

二 認証 型式住宅部分等製造者認証申請書及びその添付図書、型式住宅部分等製造者認証書の写しその他審査の結果を記載した書類並びに認証型式住宅部分等製造者変更届出書

三 認証の更新 型式住宅部分等製造者認証更新申請書及びその添付図書、型式住宅部分等製造者認証書の写しその他審査の結果を記載した書類並びに認証型式住宅部分等製造者変更届出書

前項各号に定める書類が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ登録住宅型式性能認定等機関において電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスクをもって同項各号の書類に代えることができる。

三 登録住宅型式性能認定等機関は、第一項各号の書類（前項の規定による記録が行われた同項のファイル又は磁気ディスクを含む。第七十五条第二号において単に「書類」という。）を、当該認定又は認証が失効したときから二十年間保存しなければならない。

(登録住宅型式性能認定等機関に係る業務の休廃止の届出)

第六十九条 登録住宅型式性能認定等機関は、法第四十四条第三項において準用する法第二十三条第一項の規定により認定等の業務の全部又は一部を休止し、又は廃止しようとするときは、別記第五十五号様式の登録住宅型式性能認定等機関業務休廃止届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

(認定等業務規程)

第七十条 登録住宅型式性能認定等機関は、法第四十九条第一項前段の規定により認定等業務規程の届出をしようとするときは、別記第五十六号様式の登録住宅型式性能認定等業務規程届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

二 登録住宅型式性能認定等機関は、法第四十九条第一項後段の規定により認定等業務規程の変更届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

三 法第四十九条第二項の国土交通省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

一 認定等の業務を行う時間及び休日に関する事項

二 事務所の所在地及びその事務所が認定等の業務を行う区域に関する事項

三 認定等を行う住宅の種類その他認定等の業務の範囲に関する事項

四 認定等の業務の実施の方法に関する事項

五 認定等の業務に関する料金及びその収納の方法に関する事項

六 認定員の選任及び解任に関する事項

七 認定等の業務に関する秘密の保持に関する事項

八 認定等の業務の実施及び管理の体制に関する事項

九 第六十七条第三項に規定する帳簿その他の認定等の業務に関する書類の管理に関する事項
十 財務諸表等（法第四十四条第三項において準用する法第十八条第一項に規定する財務諸表等をいう。以下この号において同じ。）の備付け及び財務諸表等に係る法第四十四条第三項において準用する法第十八条第二項各号に掲げる請求の受付に関する事項

十一 認定等の業務に関する公正の確保に関する事項

十二 その他認定等の業務の実施に関し必要な事項

四 登録住宅型式性能認定等機関は、認定等業務規程を認定等の業務を行うすべての事務所等業務時間内に公衆に閲覧させるとともに、インターネットを利用して閲覧に供する方法により公表するものとする。

(登録住宅型式性能認定等機関による認定等の報告)

第七十一条 登録住宅型式性能認定等機関は、認定等を行ったときは、遅滞なく、別記第五十八号様式の認定等を行った旨の報告書を国土交通大臣に提出しなければならない。

二 登録住宅型式性能認定等機関は、前項の認定等を行った旨の報告書に記載した事項に変更があった場合には、遅滞なく、その旨を国土交通大臣に報告するものとする。

(国土交通大臣への報告)

第七十二条 登録住宅型式性能認定等機関は、次に掲げる場合には、直ちにその旨を国土交通大臣に報告しなければならない。

一 住宅型式性能認定を受けた型式が日本住宅性能表示基準に従って表示すべき性能を有していない事実があると史料するとき。

二 認証型式住宅部分等製造者が法第三十四条第一号又は第四号に該当する事実があると史料するとき。

三 認証型式住宅部分等製造者の技術的生産条件が法第三十五条第二号の国土交通大臣が定める技術的基準に適合していない事実があると史料するとき。

四 認証型式住宅部分等製造者が法第三十八条の規定に違反する事実があると史料するとき。

五 認証型式住宅部分等製造者が不正の手段により認証を受けたと史料するとき。

(国土交通大臣による通知等)

第七十三条 法第五十三条第二項の規定により国土交通大臣が行う通知及び公示は、次に掲げる事項について行うものとする。

一 住宅型式性能認定書の交付を受けた者の氏名又は名称及び住所

二 住宅型式性能認定を受けた型式に係る住宅又はその部分の種類

三 当該型式に係る性能表示事項

四 当該型式が住宅に係るものである場合にあつては、当該型式の性能

五 当該型式の認定番号

六 当該型式を認定した登録住宅型式性能認定等機関の名称

第七十四条 法第五十三条第三項の規定により国土交通大臣が行う通知及び公示は、次に掲げる事項について行うものとする。

一 認証型式住宅部分等製造者の氏名又は名称及び住所

二 当該認証に係る型式住宅部分等の種類

三 認証番号

四 当該認証を行った登録住宅型式性能認定等機関の名称

(認定等の業務の引継ぎ)

第七十五条 登録住宅型式性能認定等機関は、法第五十六条第三項に規定する場合には、次に掲げる行為をしなければならない。

一 認定等の業務を国土交通大臣に引き継ぐこと。

二 認定等の業務に関する帳簿及び書類を国土交通大臣に引き継ぐこと。

三 その他国土交通大臣が必要と認める行為

(国土交通大臣が行う認定等の手数料の納付の方法)

第七十六条 法第五十七条の規定による手数料の納付は、当該手数料の金額に相当する額の収入印紙をもって行うものとする。ただし、印紙をもって納め難い事由があるときは、現金をもってすることができ。

(国土交通大臣が行う認定等の手数料の額)

第七十七条 法第五十七条の国土交通省令で定める手数料の額は、次の各号に掲げる認定等の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める額とする。

一 住宅型式性能認定 申請一件につき、次の表の(イ)欄に掲げる区分に応じ、(ロ)欄及び(ハ)欄に掲げる額の合計額

(い)	(ろ)	(は)
床面積の合計が百平方メートル以内のもの又は床の部分がないもの	一万五千円	一万円
床面積の合計が百平方メートルを超え、二百平方メートル以内のもの	二万円	一万二千元
床面積の合計が二百平方メートルを超え、五百平方メートル以内のもの	三万二千元	一万四千元
床面積の合計が五百平方メートルを超え、千平方メートル以内のもの	三万八千元	一万五千元
床面積の合計が千平方メートルを超え、二千平方メートル以内のもの	五万五千元	一万七千元
床面積の合計が二千平方メートルを超え、一万平方メートル以内のもの	十六万九千元	一万八千元
床面積の合計が一万平方メートルを超えるもの	二十七万二千元	二万千元

二 認証又は認証の更新 申請に係る工場等一件につき、四十九万円（外国において本邦に輸出される型式住宅部分の製造をするものにあつては、申請に係る工場等一件につき三十九万円に、職員二人が法第三十五条第二号に掲げる基準に適合するかどうかを審査するため、当該審査に係る工場等の所在地に出張をするとした場合に旅費法の規定により支給すべきこととなる旅費の額に相当する額を加算した額。この場合において、その旅費の額の計算に關し必要な細目は、第五十五条から第五十七条までの規定を準用する。）

次の各号に掲げる場合の手数料は、前項各号の規定にかかわらず、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める額とする。

一 同時に行われる申請において、一の型式につき二以上の性能表示事項についてそれぞれ住宅型式性能認定を受けようとする場合 前項第一号の表の（い）欄に掲げる認定を受けようとする住宅又はその部分に応じ、（ろ）欄に掲げる額に申請件数を乗じた額及び（は）欄に掲げる額の合計額

- 二 既に認証を受けた者が、当該認証に係る技術的生産条件で製造をする別の型式住宅部分等につき新たに認証を受けようとする場合 申請一件につき二万六千元
- 三 既に建築基準法施行令（昭和二十五年政令第三百三十八号）第百三十六条の二の十一第一号に規定する建築物の部分に係る建築基準法第六十八条の十一第一項の認証を受けた者が、当該認証に係る技術的生産条件で製造をする住宅である型式住宅部分等につき認証を受けようとする場合 申請一件につき二万六千元
- 四 同時に行われる申請において、一の技術的生産条件で製造をする二以上の型式の型式住宅部分等につき認証を受けようとする場合 二万六千元に申請件数から一を減じた数を乗じた額及び前項第二号に定める額の合計額
- 五 一の申請において、一の技術的生産条件で二以上の工場等において認証を受けようとする場合 二万六千元に申請に係る工場等の件数から一を減じた数を乗じた額及び前項第二号に定める額の合計額
- 六 同時に行われる申請において、一の工場において二以上の技術的生産条件で製造をする二以上の型式の型式住宅部分等につき認証を受けようとする場合 三十九万円に申請件数から一を減じた数を乗じた額及び前項第二号に定める額の合計額

第三章 特別評価方法認定
第一節 特別評価方法認定

（特別評価方法認定の申請）

第七十八条 特別評価方法認定の申請をしようとする者は、別記第五十九号様式の特別評価方法認定申請書（以下単に「特別評価方法認定申請書」という。）に第八十三条第一項に規定する証明書を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

（特別評価方法認定申請書に記載すべき事項）
第七十九条 法第五十八条第二項の国土交通省令で定める申請書に記載すべき事項は、次に掲げるものとする。

- 一 認定を申請しようとする者の氏名又は名称及び住所
- 二 日本住宅性能表示基準に従つて表示すべき性能に關し、評価方法基準に従つた方法に代えて、特別の建築材料若しくは構造方法に応じて又は特別の試験方法若しくは計算方法を用いて評価する方法（以下「特別評価方法」という。）の名称
- 三 特別評価方法を用いて評価されるべき性能表示事項

（特別評価方法認定書の交付等）

第八十条 国土交通大臣は、特別評価方法認定をしたときは、別記第六十号様式の特別評価方法認定書（以下単に「特別評価方法認定書」という。）を申請者に交付しなければならない。

2 国土交通大臣は、特別評価方法認定をしないときは、別記第六十一号様式の通知書を申請者に交付しなければならない。

3 特別評価方法認定書の交付を受けた者は、特別評価方法認定書を滅失し、汚損し、又は破損したときは、特別評価方法認定書の再交付を申請することができる。

（特別評価方法認定の手数料）

第八十一条 法第六十条の規定による手数料の納付は、当該手数料の金額に相当する額の収入印紙をもつて行うものとする。ただし、印紙をもつて納め難い事由があるときは、現金をもつてすることができる。

2 法第六十条の国土交通省令で定める手数料の額は、申請一件につき二万円とする。

（試験の申請）

第八十二条 特別評価方法認定のための審査に係る試験の申請をしようとする者は、別記第六十二号様式の試験申請書に次に掲げる図書を添えて、これを登録試験機関に提出しなければならない。

- 一 特別評価方法の概要を記載した書類
- 二 評価方法基準に従つた方法のうち、特別評価方法により代えられるべき部分を明示した書類
- 三 前二号に掲げるもののほか、平面図、立面図、断面図、構造詳細図、構造計算書、実験の結果その他の試験を実施するために必要な事項を記載した図書

（証明書の交付等）

第八十三条 登録試験機関は、試験を実施したときは、別記第六十三号様式の試験の結果の証明書（次項において「証明書」という。）を申請者に交付しなければならない。

2 証明書の交付を受けた者は、証明書を滅失し、汚損し、又は破損したときは、証明書の再交付を申請することができる。

第二節 登録試験機関

（登録試験機関に係る登録の申請）

第八十四条 法第六十一条第一項に規定する登録を受けようとする者は、別記第六十四号様式の登録試験機関登録申請書に次に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

- 一 定款又は寄附行為及び登記事項証明書
- 二 申請の日の属する事業年度の前事業年度における財産目録及び貸借対照表。ただし、申請の日の属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録とする。
- 三 申請に係る意思の決定を証する書類
- 四 申請者（法人である場合はその役員）の氏名及び略歴（申請者が住宅関連事業者の役員又は職員（過去二年間に当該住宅関連事業者の役員又は職員であつた者を含む。）である場合には、その旨を含む。）を記載した書類
- 五 主要な株主の構成を記載した書類

六 組織及び運営に関する事項（試験の業務以外の業務を行っている場合は、当該業務の種類及び概要）を記載した書類

七 申請者が法第八条第一号及び第二号に規定する者に該当しない旨の市町村の長の証明書

八 申請者が法第八条第三号及び法第六十二条第二号から第四号までに該当しない旨を誓約する書面

九 試験の業務を行う部門の専任の管理者の氏名及び略歴を記載した書類

十 試験員となるべき者の氏名及び略歴を記載した書類並びに当該者が法第六十四条各号に掲げる者であることを証する書類

十一 その他参考となる事項を記載した書類

（心身の故障により試験の業務を適正に行うことができない者）

第八十四条の二 法第六十二条第三号の国土交通省令で定める者は、精神の機能の障害により試験の業務を適正に行うに当たつて必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行うことができない者とする。

（登録試験機関登録簿の記載事項）

第八十五条 法第六十三条第二項第六号の国土交通省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

一 登録試験機関が法人である場合は、役員の氏名

二 試験の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

（公示事項）

第八十六条 法第六十一条第三項において準用する法第十条第一項の国土交通省令で定める事項は、前条各号に掲げる事項とする。

（登録試験機関に係る事項の変更の届出）

第八十七条 登録試験機関は、法第六十一条第三項において準用する法第十条第二項の規定により法第六十三条第二項第二号又は第四号から第六号までに掲げる事項を変更しようとするときは、別記第六十五号様式の登録試験機関変更届出書に第八十四条各号に掲げる書類のうち変更に係るものを添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。同条ただし書の規定は、この場合について準用する。

（登録試験機関に係る登録の更新）

第八十八条 登録試験機関は、法第六十一条第三項において準用する法第十一条第一項の登録の更新を受けようとするときは、別記第六十六号様式の登録試験機関登録更新申請書に第八十四条各号に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。同条ただし書の規定は、この場合について準用する。

二 第八十五条の規定は、登録試験機関が登録の更新を行う場合について準用する。

（承継の届出）

第八十九条 法第六十一条第三項において準用する法第十二条第二項の規定により登録試験機関の地位の承継の届出をしようとする者は、別記第六十七号様式の登録試験機関事業承継届出書に次に掲げる書類を添えて、これを国土交通大臣に提出しなければならない。

一 法第六十一条第三項において準用する法第十二条第一項の規定により登録試験機関の事業の全部を譲り受けて登録試験機関の地位を承継した者にあつては、別記第六十八号様式の登録試験機関事業譲渡証明書及び事業の全部の譲渡があつたことを証する書面

二 法第六十一条第三項において準用する法第十二条第一項の規定により登録試験機関の地位を承継した相続人であつて、二以上の相続人の全員の同意により選定されたものにあつては、別記第六十九号様式の登録試験機関事業相続同意証明書及び戸籍謄本

三 法第六十一条第三項において準用する法第十二条第一項の規定により登録試験機関の地位を承継した相続人であつて、前号の相続人以外のものにあつては、別記第七十号様式の登録試験機関事業相続証明書及び戸籍謄本

四 法第六十一条第三項において準用する法第十二条第一項の規定により合併によつて登録試験機関の地位を承継した法人にあつては、その法人の登記事項証明書

五 法第六十一条第三項において準用する法第十二条第一項の規定により分割によつて登録試験機関の地位を承継した法人にあつては、別記第七十一号様式の登録試験機関事業承継証明書、事業の全部の承継があつたことを証する書面及びその法人の登記事項証明書

（試験の業務の実施基準）

第九十条 法第六十一条第三項において準用する法第十五条第二項の国土交通省令で定める基準は、次に掲げるのとおりとする。

一 次に定める方法に従い、試験員二名以上によつて行うこと。

イ 第八十二条第一項各号に掲げる図書をもつて審査を行うこと。

ロ 審査を行うに際し、図書の記載事項に疑義があり、提出された図書のみでは試験を行うことが困難であると認めるときは、追加の図書を求めて審査を行うこと。

ハ イ又はロの図書のみでは、試験を行うことが困難であると認めるときは、申請者にその旨を通知し、試験に係る実物等の提出を受け、当該試験を行うことが困難であると認める事項について追加試験その他の方法により審査を行うこと。

二 登録試験機関が試験の申請を自ら行った場合その他の場合であつて、試験の業務の公正な実施に支障を及ぼすおそれがあるものとして国土交通大臣が定める場合においては、これらの申請に係る試験を行わないこと。

三 試験の業務を行う部門の専任の管理者は、登録試験機関の役員又は当該部門を管理する上で必要な権限を有する者であること。

四 試験の業務に関し支払うことのある損害賠償のため保険契約を締結していること。

（電磁的記録に記録された事項を表示する方法）

第九十一条 法第六十一条第三項において準用する法第十八条第二項第三号の国土交通省令で定める方法は、当該電磁的記録に記録された事項を紙面又は出力装置の映像面に表示する方法とする。

（電磁的記録に記録された事項を提供するための電磁的方法）

第九十二条 法第六十一条第三項において準用する法第十八条第二項第四号の国土交通省令で定める電磁的方法は、次に掲げるもののうち、登録試験機関が定めるものとする。

一 登録試験機関の使用に係る電子計算機と法第六十一条第三項において準用する法第十八条第二項第四号に掲げる請求をした者（以下この条において「請求者」という。）の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用する方法であつて、当該電気通信回線を通じて情報が送信され、請求者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該情報が記録されるもの

二 磁気ディスクをもつて調製するファイルに情報を記録したものを請求者に交付する方法

三 前項各号に掲げる方法は、請求者がファイルへの記録を出力することによる書面を作成できるものでなければならない。

（帳簿）

第九十三条 法第六十一条第三項において準用する法第十九条第一項の試験の業務に関する事項で国土交通省令で定めるものは、次に掲げるものとする。

一 試験を申請した者の氏名又は名称及び住所

二 試験の申請に係る特別評価方法の名称

三 当該特別評価方法を用いて評価されるべき性能表示事項

四 試験の申請を受けた年月日

五 試験を行った試験員の氏名

六 証明書の交付を行った年月日

二 前項各号に掲げる事項が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ登録試験機関において電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該記録をもつて法第六十一条第三項において準用する法第十九条第一項の帳簿（次項において単に「帳簿」という。）への記載に代えることができる。

3 登録試験機関は、帳簿（前項の規定による記録が行われた同項のファイル又は磁気ディスクを含む。第九十七条第二号において同じ。）は、試験の業務の全部を廃止するまで保存しなければならない。（書類の保存）

第九十四条 法第六十一条第三項において準用する法第十九条第二項の試験の業務に関する書類で国土交通省令で定めるものは、第八十二条第一項各号に掲げる図書及び証明書の写しその他の審査の結果を記載した書類とする。

2 前項の書類が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ登録試験機関において電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスクをもって同項の書類に代えることができる。

3 登録試験機関は、第一項の書類（前項の規定による記録が行われた同項のファイル又は磁気ディスクを含む。第九十七条第二号において単に「書類」という。）を、当該書類に係る特別評価方法認定が取り消されたときから二十年間保存しなければならない。

（登録試験機関に係る業務の休廃止の届出）

第九十五条 登録試験機関は、法第六十一条第三項において準用する法第二十三条第一項の規定により試験の業務の全部又は一部を休止し、又は廃止しようとするときは、別記第七十二号様式の登録試験機関業務休廃止届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

（試験業務規程）

第九十六条 登録試験機関は、法第六十一条第三項において準用する法第四十九条第一項前段の規定により試験業務規程の届出をしようとするときは、別記第七十三号様式の登録試験機関試験業務規程届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

2 登録試験機関は、法第六十一条第三項において準用する法第四十九条第一項後段の規定により試験業務規程の変更の届出をしようとするときは、別記第七十四号様式の登録試験機関試験業務規程変更届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

3 法第六十一条第三項において準用する法第四十九条第二項の国土交通省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

- 一 試験の業務を行う時間及び休日に関する事項
- 二 事務所の所在地及びその事務所が試験の業務を行う区域に関する事項
- 三 試験を行う住宅の種類その他試験の業務の範囲に関する事項
- 四 試験の業務の実施の方法に関する事項
- 五 試験の業務に関する料金及びその収納の方法に関する事項
- 六 試験員の選任及び解任に関する事項
- 七 試験の業務に関する秘密の保持に関する事項
- 八 試験の業務の実施及び管理の体制に関する事項
- 九 第九十三条第三項に規定する帳簿その他の試験の業務に関する書類の管理に関する事項
- 十 財務諸表等（法第六十一条第三項において準用する法第十八条第一項に規定する財務諸表等をいう。以下この号において同じ。）の備付け及び財務諸表等に係る法第六十一条第三項において準用する法第十八条第二項各号に掲げる請求の受付に関する事項
- 十一 試験の業務に関する公正の確保に関する事項
- 十二 その他試験の業務の実施に関し必要な事項
- 4 登録試験機関は、試験業務規程を試験の業務を行うすべての事務所で業務時間内に公衆に閲覧させるとともに、インターネットを利用して閲覧に供する方法により公表するものとする。

（試験の業務の引継ぎ）

第九十七条 登録試験機関は、法第六十一条第三項において準用する法第五十六条第三項に規定する場合においては、次に掲げる行為をしなければならない。

- 一 試験の業務を国土交通大臣に引き継ぐこと。
- 二 試験の業務に関する帳簿及び書類を国土交通大臣に引き継ぐこと。

三 その他国土交通大臣が必要と認める行為

（国土交通大臣が行う試験の手数料の納付の方法）

第九十八条 法第六十一条第三項において準用する法第五十七条の規定による手数料の納付は、当該手数料の金額に相当する額の収入印紙をもって行うものとする。ただし、印紙をもって納め難い事由があるときは、現金をもつてすることができ。

（国土交通大臣が行う試験の手数料の額）

第九十九条 法第六十一条第三項において準用する法第五十七条の国土交通省令で定める手数料の額は、申請一件につき、次の表の（い）欄に掲げる試験の区分に応じ、（ろ）欄及び（は）欄に掲げる額の合計額を加算した額とする。

(い)	特別の建築材料に応じて評価する方法のための審査に必要な試験				(ろ)	(は)		
特別の試験方法に 応じて評価する 方法の認定 のための審査に 必要な 試験	構造の安定に関する性能表 示事項として国土交通大臣 が定めるものに係る認定の ための審査に必要な試験	床面積の合計が五百 平方メートル以内の もの			円	三十七万	五万円	
		床面積の合計が五百 平方メートルを超 え、三千平方メー トル以内のもの			円	五十八万	七万円	
		床面積の合計が三千 平方メートルを超 え、一万平方メー トル以内のもの			円	八十六万	十万円	
		床面積の合計が一万 平方メートルを超 えるもの			円	百十一万	十一万	
		右に掲げる試験以外のもの			円	三十六万	五万円	
特別の試験方法に 応じて評価する 方法の認定のため の審査に必要な 試験	特別の試験方法に 応じて評価する 方法の認定のため の審査に必要な 試験					円	四十六万	五万円
	特別の試験方法に 応じて評価する 方法の認定のため の審査に必要な 試験					円	四十六万	五万円

2 次の各号に掲げる場合の手数料は、前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める額とする。

- 一 建築基準法第六十八条の二十五第一項の構造方法等の認定その他建築材料又は建築物に係る構造方法、試験方法若しくは計算方法に関する認定、評定又はこれらに類するもので国土交通大臣が認めるもの（次号において「技術的認定等」という。）を受けた特別評価方法（建築材料又は構造方法に係るものに限る。）の認定のための審査に必要な試験を受けようとする場合
- 二 技術的認定等を受けた特別評価方法（試験方法又は計算方法に係るものに限る。）の認定のための審査に必要な試験を受けようとする場合
- 三 一の申請において、前項の表の（い）欄に掲げる二以上の試験の区分について試験を受けようとする場合

（ろ）欄に掲げる額に三分の二を乗じた額及び（は）欄に掲げる額の合計額を加算した額

つては(ろ)欄に掲げる額に二分の一を乗じた額、前号に規定する場合にあっては(ろ)欄に掲げる額に三分の二を乗じた額)の合計額及びそれぞれの試験の区分に係る(は)欄に掲げる額のうち最も大きい額の合計額を加算した額

第四章 住宅に係る紛争の処理体制

第一節 指定住宅紛争処理機関

(指定住宅紛争処理機関に係る指定の申請)

第百条 法第六十六条第一項の規定による指定を受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書を国土交通大臣に提出しなければならない。

- 一 名称及び住所
- 二 紛争処理の業務を行うとする事務所の所在地
- 三 紛争処理の業務を開始しようとする年月日
- 四 前項の申請書には、指定の申請をしようとする者が弁護士会である場合にあっては第一号、第四号、第六号及び第八号、弁護士会以外の者である場合にあっては次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。
 - 一 弁護士法(昭和二十四年法律第二百五号)第三十三条第一項に規定する会則又は定款及び登記事項証明書
 - 二 申請の日の属する事業年度の前事業年度における財産目録(申請の日の属する事業年度に設立された法人にあっては、その設立時における財産目録)及び貸借対照表
 - 三 申請に係る意思の決定を証する書類
 - 四 役員の名及び略歴を記載した書類
 - 五 組織及び運営に関する事項を記載した書類
 - 六 紛争処理委員となるべき者の氏名及び略歴を記載した書類
 - 七 現に行っている業務の概要を記載した書類
 - 八 その他参考となる事項を記載した書類

(紛争処理委員の変更の届出)

第百一条 指定住宅紛争処理機関は、紛争処理委員に変更があった場合においては、遅滞なく、新たに選任した紛争処理委員の氏名及び略歴を記載した書類を添付して、その旨を国土交通大臣に届け出なければならない。

(指定住宅紛争処理機関である旨の揭示等)

第百二条 指定住宅紛争処理機関は、当該機関の名称及び「指定住宅紛争処理機関」の文字を、当該機関の事務所の入口又は受付の付近の見やすい場所に揭示するとともに、当該機関のウェブサイトに掲載して公衆の閲覧に供しなければならない。

(指定住宅紛争処理機関に係る業務の休廃止の届出)

第百三条 指定住宅紛争処理機関は、法第六十六条第三項において準用する法第二十三条第一項の規定により紛争処理の業務の全部又は一部を休止し、又は廃止しようとするときは、別記第七十五号様式の指定住宅紛争処理機関業務休廃止届出書を国土交通大臣に提出しなければならない。

(住宅紛争処理の申請)

第百四条 住宅紛争処理の申請をしようとする者は、別記第七十六号様式の住宅紛争処理申請書(次項及び第百五条の二において単に「住宅紛争処理申請書」という。)を指定住宅紛争処理機関に提出しなければならない。

2 仲裁の申請をする場合においては、法による仲裁に付する旨の合意を証する書面を住宅紛争処理申請書に添付しなければならない。

3 前項の場合において、仲裁合意が仲裁法(平成十五年法律第三十八号)第十三条第四項に規定する電磁的記録によってされたときは、書面に代えて電磁的記録を添付することができる。

(あつせん又は調停の開始)

第百五条 指定住宅紛争処理機関は、当事者の双方又は一方から、あつせん又は調停の申請がなされたときは、あつせん又は調停を行う。

(紛争処理の通知)

第百五条の二 指定住宅紛争処理機関は、当事者の一方からあつせん又は調停の申請がなされたときは住宅紛争処理申請書の写しを添えてその相手方に対し、遅滞なく、その旨を通知しなければならない。

(申請の変更)

第百五条の三 あつせん又は調停の申請人は、住宅紛争処理を求める事項を変更することができる。ただし、これにより、当該あつせん又は調停の手続を著しく遅延させる場合は、この限りでない。

2 指定住宅紛争処理機関は、前項の規定による変更の申請がなされたときは、その相手方に対し、遅滞なく、その旨を通知しなければならない。

(あつせん)

第百六条 指定住宅紛争処理機関によるあつせんは、三人以内のあつせん委員がこれを行う。

2 あつせん委員は、当事者間をあつせんし、双方の主張の要点を確かめ、事件が解決されるように努めるものとする。

(調停)

第百七条 指定住宅紛争処理機関による調停は、三人以内の調停委員がこれを行う。

2 指定住宅紛争処理機関は、調停案を作成し、当事者に対しその受諾を勧告することができる。

第百八条 指定住宅紛争処理機関は、紛争がその性質上あつせん若しくは調停をするのに適当でないとき、又は当事者が不当な目的のみだりにあつせん若しくは調停の申請をしたと認めるときは、あつせん又は調停をしないものとする。

(あつせん又は調停の打ち切り)

第百八条の二 指定住宅紛争処理機関は、あつせん又は調停に係る法第六十七条第一項に規定する紛争についてあつせん又は調停による解決の見込みがないと認めるときは、あつせん又は調停を打ち切ることができる。

2 指定住宅紛争処理機関は、前項の規定によりあつせん又は調停を打ち切ったときは、その旨を当事者に通知しなければならない。

(仲裁の開始)

第百九条 指定住宅紛争処理機関は、当事者間に法による仲裁に付する旨の合意がある場合であつて、当事者の双方又は一方から仲裁の申請がなされたときは、仲裁を行う。

(仲裁)

第百十条 指定住宅紛争処理機関による仲裁は、三人以内の仲裁委員がこれを行う。

2 仲裁委員は、紛争処理委員のうちから当事者が合意によって選定した者につき、指定住宅紛争処理機関の長が指名する。

3 当事者の合意による仲裁委員となるべき者の選定(以下この項において「合意選定」という。)がなされない場合において、合意選定がなされていない仲裁委員となるべき者は、紛争処理委員のうちから指定住宅紛争処理機関の長が指名する。ただし、合意選定がなされていない仲裁委員となるべき者が二人又は三人である場合においては、仲裁委員のうち二人は、紛争処理委員のうちから当事者がそれぞれ一人ずつ選定した者につき、指定住宅紛争処理機関の長が指名する。

4 指定住宅紛争処理機関の行う仲裁については、法及びこの規則に別段の定めがある場合を除いて、仲裁委員を仲裁人とみなして、仲裁法の規定に準じて行うものとする。

(仲裁委員が欠けた場合の措置)

第百十一条 指定住宅紛争処理機関は、仲裁委員が死亡、解任、辞任その他の理由により欠けた場合においては、当事者に対し、遅滞なく、その旨を通知しなければならない。

2 前条の規定は、仲裁委員が欠けた場合における後任の仲裁委員となるべき者の選定及び後任の仲裁委員の指名について準用する。

(住宅紛争処理における期日調書等の保存)

第百十二條 指定住宅紛争処理機関は、住宅紛争処理の手続が終了した日から二十年間、審理の経過を記載した期日調書その他当該事件に関する書類を保存しなければならない。

2 前項の書類が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ指定住宅紛争処理機関において電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスクをもって同項の書類に代えることができる。

(選任すべき紛争処理委員の数)

第百十三條 法第六十八条第一項の国土交通省令で定める数は、十人とする。

(住宅紛争処理の申請手数料)

第百十四條 法第七十三条第一項の規定による申請手数料の納付は、住宅紛争処理支援センターが指定する口座に当該申請手数料を振り込み、かつ、その振込みを証明する書面(電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によつては認識することができない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。第百二十三条第一項において同じ。)を含む。)を、指定住宅紛争処理機関に対し、提出することにより行わなければならない。

2 法第七十三条第一項の国土交通省令で定める額は、一万円とする。

(当事者が負担する費用)

第百十五條 指定住宅紛争処理機関は、当事者の申立てに係る鑑定、証人の出頭その他の住宅紛争処理の手続に要する費用で、指定住宅紛争処理機関の長が相当と認めるものを、当事者に負担させることができる。

(区分経理の方法)

第百十六條 指定住宅紛争処理機関は、紛争処理の業務に係る経理について特別の勘定を設け、紛争処理の業務に係る経理とその他の業務に係る経理とを区分して整理しなければならない。

2 指定住宅紛争処理機関は、紛争処理の業務とその他の業務の双方に関連する費用については、適正な基準によりそれぞれの業務に配分して経理しなければならない。

第二節 住宅紛争処理支援センター

(住宅紛争処理支援センターに係る指定の申請)

第百十六條の二 法第八十二条第一項の規定による指定を受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書を国土交通大臣に提出しなければならない。

- 一 名称及び住所
- 二 支援等の業務を行おうとする事務所の所在地
- 三 支援等の業務を開始しようとする年月日
- 四 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

一 定款及び登記事項証明書

二 申請の日の属する事業年度の前事業年度における財産目録(申請の日の属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録)及び貸借対照表

三 申請に係る意思の決定を証する書類

四 法第八十二条第一項第一号に規定する支援等の業務の実施に関する計画として次の事項を記載した書類

イ 支援等の業務に関する知識及び経験を有する者の確保の状況並びに当該者の配置の状況に関する事項

ロ 組織及び運営に関する事項

ハ 支援等の業務の概要に関する事項

五 役員の氏名及び略歴を記載した書類

六 現に行っている業務の概要を記載した書類

七 その他参考となる事項を記載した書類

(支援等業務規程で定めるべき事項)

第百十七條 法第八十四条第二項の国土交通省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

一 支援等の業務を行う時間及び休日に関する事項

二 支援等の業務を行う事務所に關する事項

三 支援等の業務の実施の方法に関する事項

四 支援等の業務に関する書類の管理に関する事項

五 その他支援等の業務の実施に關し必要な事項

(帳簿)

第百十八條 法第八十二条第三項において準用する法第十九条第一項の支援等の業務に関する事項で国土交通省令で定めるものは、次に掲げるものとする。

一 法第八十三条第一項第二号の情報及び資料の名称並びにこれらを収集した年月日

二 法第八十三条第一項第三号の調査及び研究の名称並びにこれらを行った年月日

三 法第八十三条第一項第四号の研修の名称及びこれを行った年月日

四 法第八十三条第一項第六号の相談、助言及び苦情の処理を行った年月日並びに相手方の氏名

五 法第八十三条第一項第七号の相談、助言及び苦情の処理を行った年月日

六 法第八十三条第一項第八号の調査及び研究の名称並びにこれらを行った年月日

2 前項各号に掲げる事項が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じ住宅紛争処理支援センター(以下「センター」という。)において電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該記録をもって法第八十二条第三項において準用する法第十九条第一項の帳簿(次項において単に「帳簿」という。)への記載に代えることができる。

3 センターは、帳簿(前項の規定による記録が行われた同項のファイル又は磁気ディスクを含む。)を、支援等の業務の全部を廃止するまで保存しなければならない。

(書類の保存)

第百十九條 法第八十二条第三項において準用する法第十九条第二項の支援等の業務に関する書類(以下この条において単に「書類」という。)で国土交通省令で定めるものは、次に掲げるものとする。

一 第百二十一条第一項の期首計画書、助成金使途計画書及び設備購入計画書

二 第百二十三条第一項の助成金使途報告書及び紛争処理の業務に係る費用に係る支出であることを証すべき書面

2 前項の書類が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録され、必要に応じセンターにおいて電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスクをもって同項各号の書類に代えることができる。

3 センターは、第一項各号の書類(前項の規定による記録が行われた同項のファイル又は磁気ディスクを含む。)を、支援等の業務の全部を廃止するまで保存しなければならない。

(助成の対象となる費用)

第百二十條 指定住宅紛争処理機関の支出に計上することができる費用は、次の各号に掲げる費目に応じ、当該各号に掲げるものとする。

一 人件費 紛争処理の業務に従事する役員又は職員に支払う基本給、手当、賞与、法定福利費、法定外福利費及び退職金並びに紛争処理の業務に従事する役員又は職員であつた者に支払う退職金のうち、実質的に紛争処理の業務に従事したと認められる部分に相当する費用

二 事務所使用料 紛争処理の業務のために使用する事務所の賃料(当該事務所が指定住宅紛争処理機関の所有するものである場合にあっては、適正な算出方法により算定した賃料に相当する費用)のうち、実質的に紛争処理の業務のために使用したと認められる部分に相当する費用

三 貸会議室使用料 審理その他の紛争処理の業務のために使用する会議室(一時的に賃借する室で、賃借する時間によつて賃料が定められたものをいう。)の賃料

四 紛争処理委員謝金 法第六十八条第二項の規定により事件ごとに指名された紛争処理委員(次号において「指名紛争処理委員」という。)に対して支払う謝金

五 鑑定・現地調査費 鑑定又は指名紛争処理委員が行う現地調査に要する費用

六 設備費 紛争処理の業務のために使用する設備の購入費用
七 諸雑費 前各号に掲げるもののほか、光熱水費、通信費、消耗品費、旅費その他紛争処理の業務に要する費用
八 設立準備費 法第六十六条第一項の規定による指定以前に紛争処理の業務を開始するために要した費用

2 指定住宅紛争処理機関は、紛争処理の業務に要する費用について、前項各号に掲げる費用以外の費目を設けることができる。

(助成金使途計画書等の提出)

第二百一十一条 指定住宅紛争処理機関は、毎事業年度、別記第七十七号様式の助成金使途計画書に、別記第七十八号様式の期首計画書及び別記第七十九号様式の設備購入計画書を添えて、当該事業年度開始の日（一月前までに）（法第六十六条第一項の指定を受けた日の属する事業年度にあつては、その指定を受けた後遅滞なく）、センターに提出しなければならない。

2 指定住宅紛争処理機関は、前項の規定により提出した期首計画書又は設備購入計画書の記載内容を変更しようとするときは、その変更に係るものをセンターに提出しなければならない。

3 センターは、前二項の規定により提出された助成金使途計画書、期首計画書又は設備購入計画書の記載内容が適正でないときと認める場合においては、指定住宅紛争処理機関から理由を聴取し、又はその補正を求めるものとする。

(助成)

第二百二十二条 センターは、助成金使途計画書に記載された助成金収入の予算額を、一時に又は分割して、指定住宅紛争処理機関に助成するものとする。

2 指定住宅紛争処理機関は、前項の規定により助成された金額が不足する見込みがあると認める場合においては、センターに対し、必要な金額の助成を請求することができる。この場合において、センターは、当該請求が適正と認める場合においては、遅滞なく、当該請求に係る金額を助成するものとする。

(助成金使途報告書等の提出)

第二百二十三条 指定住宅紛争処理機関は、毎事業年度、別記第八十号様式の助成金使途報告書に、貸金台帳、事務所の賃貸借契約書、領収書その他の紛争処理の業務に要する費用に係る支出であることを証すべき書面（電磁的記録を含む。）を添えて、当該事業年度経過後三月以内に、センターに提出しなければならない。

2 指定住宅紛争処理機関は、毎事業年度、当該事業年度における次に掲げる金額の合計額から支出（紛争処理の業務に要する費用に係る支出であることが明らかでなく、又は紛争処理の業務に要する費用に係る支出として適正でない）とセンターが認めたものを除く。）の合計額を控除した額を、センターに返還しなければならない。

一 前条の規定により助成された金額
二 法第七十三条第一項に規定する申請手数料による収入
三 第二百十五条の規定により当事者が負担した費用

(区分経理の方法)

第二百二十四条 センターは、評価住宅関係業務に係る経理について特別の勘定を設け、評価住宅関係業務に係る経理とその他の業務に係る経理とを区分して整理しなければならない。

2 センターは、評価住宅関係業務とその他の業務の双方に関連する収入及び費用については、適正な基準によりそれぞれの業務に配分して経理しなければならない。

第五章 権限の委任

第二百二十五条 法第三章第二節に規定する国土交通大臣の権限のうち、その評価の業務を一の地方整備局又は北海道開発局の管轄区域内のみに于行う登録住宅性能評価機関に関するものは、当該地方整備局長及び北海道開発局長に委任する。ただし、法第十六条第三項、第二十条、第二十一条、第二十二条第一項及び第二十四条に掲げる権限については、国土交通大臣が自ら行うことを妨げない。

附 則

この省令は、法の施行の日（平成十二年四月一日）から施行する。

附 則（平成十二年七月一九日建設省令第三〇号）
この省令は、公布の日から施行する。

附 則（平成十二年十一月二〇日建設省令第四一号） 抄
(施行期日)
1 この省令は、内閣法の一部を改正する法律（平成十一年法律第八十八号）の施行の日（平成十三年一月六日）から施行する。

附 則（平成十三年三月三〇日国土交通省令第七二号）
この省令は、平成十三年四月一日から施行する。

附 則（平成十四年八月二〇日国土交通省令第九五号）
この省令は、公布の日から施行する。

附 則（平成十五年四月一八日国土交通省令第六一号）
この省令は、公布の日から施行する。

附 則（平成十六年三月一日国土交通省令第一〇号）
この省令は、公布の日から施行する。

附 則（平成十六年三月三十一日国土交通省令第三四号）
この省令は、公布の日から施行する。

附 則（平成一十七年三月七日国土交通省令第二二号） 抄
(施行期日)
第一条 この省令は、公布の日から施行する。

附 則（平成一十七年五月二五日国土交通省令第五八号） 抄
(施行期日)
第一条 この省令は、景観法附則ただし書に規定する規定の施行の日（平成十七年六月一日）から施行する。

附 則（平成一十七年八月二二日国土交通省令第八六号）
この省令は、公布の日から施行する。

附 則（平成一十七年九月一日国土交通省令第八九号） 抄
(施行期日)
第一条 この省令は、平成十八年三月一日から施行する。

第二条（経過措置）
住宅の品質確保の促進等に関する法律の一部を改正する法律附則第三条の表の第一号中欄に規定する指定を受けた区分に相当するものとして国土交通省令で定める区分は、次の表の各号の上欄に掲げる区分に応じ、当該各号の下欄に定める区分とする。

一 この省令による改正前の住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則（以下「旧施行規則」という。）第九条第一号に係る指定	法第七条第二項第一号に掲げる住宅の種別に係るこの省令による改正後の住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則（以下「新施行規則」という。）第九条第一号に掲げる区分
--	---

二 旧施行規則第九条第二号に係る指定

三 旧施行規則第九条第三号に係る指定

四 旧施行規則第九条第四号に係る指定

法第七条第二項第一号に掲げる住宅の種別に係る新施行規則第九条第二号に掲げる区分

五 旧施行規則第九条第五号に係る指定	法第七条第二項第一号に掲げる住宅の種別に係る新施行規則第九条第三号に掲げる区分
六 旧施行規則第九条第六号に係る指定	
七 旧施行規則第九条第七号に係る指定	法第七条第二項第二号に掲げる住宅の種別に係る新施行規則第九条第一号に掲げる区分
八 旧施行規則第九条第八号に係る指定	
九 旧施行規則第九条第九号に係る指定	法第七条第二項第二号に掲げる住宅の種別に係る新施行規則第九条第二号に掲げる区分
十 旧施行規則第九条第十号に係る指定	
十一 旧施行規則第九条第十一号に係る指定	法第七条第二項第二号に掲げる住宅の種別に係る新施行規則第九条第三号に掲げる区分
十二 旧施行規則第九条第十二号に係る指定	
十三 旧施行規則第九条第十三号に係る指定	法第七条第二項第三号に掲げる住宅の種別に係る新施行規則第九条第一号に掲げる区分
十四 旧施行規則第九条第十四号に係る指定	
十五 旧施行規則第九条第十五号に係る指定	法第七条第二項第三号に掲げる住宅の種別に係る新施行規則第九条第二号に掲げる区分
十六 旧施行規則第九条第十六号に係る指定	
十七 旧施行規則第九条第十七号に係る指定	法第七条第二項第三号に掲げる住宅の種別に係る新施行規則第九条第三号に掲げる区分
十八 旧施行規則第九条第十八号に係る指定	

附 則 (平成一八年四月二八日国土交通省令第五八号) 抄

(施行期日)

第一条 この省令は、会社法の施行の日（平成十八年五月一日）から施行する。

(経過措置)

第三条 この省令の施行前にしたこの省令による改正前の省令の規定による処分、手続、その他の行為は、この省令による改正後の省令（以下「新令」という。）の規定の適用については、新令の相当規定によつてしたものとみなす。

附 則 (平成二〇年二月一日国土交通省令第九七号) 抄

(施行期日)

1 この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (平成二二年三月二七日国土交通省令第一三三号)

この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (平成二二年五月二四日内閣府・国土交通省令第二二二号)

この命令は、平成二二年六月一日から施行する。

附 則 (平成二六年二月二五日内閣府・国土交通省令第一二二号)

この省令は、平成二七年四月一日から施行する。

附 則 (平成二七年一月二九日国土交通省令第五五号) 抄

(施行期日)

第一条 この省令は、建築基準法の一部を改正する法律（平成二六年法律第五十四号。以下「改正法」という。）の施行の日（平成二七年六月一日。以下「施行日」という。）から施行する。

第二条 (経過措置)

4 施行日前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則 (令和元年六月二八日国土交通省令第二〇号)

この省令は、不正競争防止法等の一部を改正する法律の施行の日（令和元年七月一日）から施行する。

附 則 (令和元年九月一三日国土交通省令第三四号) 抄

(施行期日)

第一条 この省令は、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律（以下「整備法」という。）の施行の日（令和元年九月十四日）から施行する。

附 則 (令和元年一〇月一日国土交通省令第三八号)

(施行期日)

1 この省令は、公布の日から施行する。ただし、第四十四条の改正規定は、令和二年四月一日から施行する。

(準備行為)

2 住宅の品質確保の促進等に関する法律第三十三条第一項の認証を受けようとする者は、前条ただし書に規定する規定の施行の日前においても、この省令による改正後の住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第四十四条の規定の例により、その申請をすることができる。

附 則 (令和元年二月一六日国土交通省令第四七号) 抄

(施行期日)

第一条 この省令は、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律の施行の日（令和元年十二月十六日）から施行する。

附 則 (令和二年二月二三日国土交通省令第九八号)

(施行期日)

1 この省令は、令和三年一月一日から施行する。

(経過措置)

2 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式による用紙は、当分の間、これを取り繕つて使用することができる。

附 則 (令和三年八月三二日国土交通省令第五三三号)

(施行期日)

1 この省令は、令和三年九月一日から施行する。

(経過措置)

2 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式による用紙は、当分の間、これを取り繕つて使用することができる。

附 則 (令和三年九月一〇日国土交通省令第五六号)

この省令は、令和三年九月三十日から施行する。

附 則 (令和三年一〇月二〇日内閣府・国土交通省令第五五号)

この命令は、住宅の質の向上及び円滑な取引環境の整備のための長期優良住宅の普及の促進に関する法律等の一部を改正する法律（令和三年法律第四十八号）の施行の日（令和四年二月二十日）から施行する。

附 則 (令和三年一〇月二〇日国土交通省令第六七号)

この省令は、住宅の質の向上及び円滑な取引環境の整備のための長期優良住宅の普及の促進に関する法律等の一部を改正する法律の施行の日（令和四年二月二十日）から施行する。

附 則 (令和四年八月一六日内閣府・国土交通省令第四四号)

この命令は、住宅の質の向上及び円滑な取引環境の整備のための長期優良住宅の普及の促進に関する法律等の一部を改正する法律（令和三年法律第四十八号）附則第一条第四号に掲げる規定の施行の日（令和四年十月一日）から施行する。

附 則（令和四年八月一六日国土交通省令第六一号）抄

（施行期日）

1 この省令は、住宅の質の向上及び円滑な取引環境の整備のための長期優良住宅の普及の促進に関する法律等の一部を改正する法律（次項において「改正法」という。）附則第一条第四号に掲げる規定の施行の日（令和四年十月一日。以下「施行日」という。）から施行する。

（経過措置）

4 この省令の施行の際現にされている住宅の品質確保の促進等に関する法律第六条の二第一項の規定による確認の求めに係る申請書の様式については、第二条の規定による改正後の住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則別記第十一号の二様式及び別記第十一号の三様式にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和六年一月一九日国土交通省令第二号）抄

（施行期日）

1 この省令は、デジタル社会の形成を図るための規制改革を推進するためのデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律の施行の日（令和六年四月一日）から施行する。

附 則（令和六年一月二九日国土交通省令第五号）抄

（施行期日）

第一条 この省令は、公布の日から施行する。

（経過措置）

第二条 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

2 この省令の施行前に交付した改正前のそれぞれの省令の規定による修了証明書及び修了証は、改正後のそれぞれの省令の規定による修了証明書及び修了証とみなす。

3 この省令による改正後の建築基準法施行規則第三条の二十六第四項（第六条の十、第六条の十四及び第六条の十六において準用する場合を含む。）、建築物の耐震改修の促進に関する法律施行規則第十八条第四項、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第三十四条第四項、建築士法に基づく中央指定登録機関等に関する省令第三十三条第四項（第四十一条及び第四十四条において準用する場合を含む。）並びに建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律施行規則第五十三条第四項の規定は、この省令の施行日以後にその修了証明書又は修了証を交付する講習に係る書類について適用する。ただし、令和七年三月三十一日までにその修了証明書又は修了証を交付する講習に係る書類については、なお従前の例によることができる。

附 則（令和六年三月八日国土交通省令第一八号）抄

（施行期日）

第一条 この省令は、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律附則第一条第三号に掲げる規定の施行の日（令和六年四月一日）から施行する。

附 則（令和六年六月二八日国土交通省令第七二号）

この省令は、公布の日から施行する。

別記

第一号様式（第二条関係）

第二号様式（第二条関係）

第二号様式(第二条関係)



第三号様式(第二条関係)



第四号様式(第三条関係)

設計住宅性能評価申請書
(第一面)

登録住宅性能評価機関 殿

年 月 日

申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第5条第1項の規定に基づき、設計住宅性能評価を申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

※受付欄	※料金欄
年 月 日	
第 号	
申請受理者氏名	

(第二面)

申請者等の概要

【1. 申請者】

【氏名又は名称のフリガナ】

【氏名又は名称】

【郵便番号】

【住所】

【電話番号】

【2. 代理者】

【氏名又は名称のフリガナ】

【氏名又は名称】

【郵便番号】

【住所】

【電話番号】

【3. 建築主】

【氏名又は名称のフリガナ】

【氏名又は名称】

【郵便番号】

【住所】

【電話番号】

【4. 設計者】

【資格】 () 建築士 () 登録 号

【氏名】

【建築士事務所名】 () 建築士事務所() 知事登録第 号

【郵便番号】

【所在地】	
【電話番号】	
【5. 設計住宅性能評価を希望する性能表示事項】	
【6. 長期使用構造等であることの確認の要否】	☐ 要 ☐ 否
【7. 備考】	
(第三面)	
建築物に関する事項	
【1. 地名地番】	
【2. 都市計画区域及び準都市計画区域の内外の別等】 ☐ 都市計画区域内(☐ 市街化区域 ☐ 市街化調整区域 ☐ 区域区分未設定) ☐ 準都市計画区域内 ☐ 都市計画区域及び準都市計画区域外	
【3. 防火地域】 ☐ 防火地域 ☐ 準防火地域 ☐ 指定なし	
【4. 敷地面積】	
【5. 建て方】 ☐ 一戸建ての住宅 ☐ 共同住宅等	
【6. 建築面積】	
【7. 延べ面積】	
【8. 住戸の数】	
【建物全体】	
【評価対象住戸】	
【9. 建築物の高さ等】	
【最高の高さ】	
【最高の軒の高さ】	
【階数】	地上()
	地下()
【構造】	造 一部 造
【10. 利用関係】 ☐ 持家 ☐ 貸家 ☐ 給与住宅 ☐ 分譲住宅	
【11. その他必要な事項】	
【12. 備考】	
(第四面)	
住戸に関する事項	
【1. 番号】	
【2. 階】	
【3. 専用部分の床面積等】	

【居室部分の面積】	
【バルコニー等専用使用部分の面積】	
【専用部分の床面積】	
【4. 当該住戸への経路】	
【共用階段】	☐ 無 ☐ 有
【共用廊下】	☐ 無 ☐ 有
【エレベーター】	☐ 無 ☐ 有
【5. 界壁・界床の有無】	
【界壁の有無】	☐ 無 ☐ 有
【界床の有無】	☐ 無 ☐ 有(☐ 上階 ☐ 下階)
【6. その他必要な事項】	
【7. 備考】	

(注意)

1. 各面共通関係
数字は算用数字を、単位はメートル法を用いてください。

2. 第一面関係
※印のある欄は記入しないでください。

3. 第二面関係
① 申請者からの委任を受けて申請を代理で行う者がいる場合においては、2欄に記入してください。
② 申請者が2以上のときは、1欄には代表となる申請者のみについて記入し、別紙に他の申請者についてそれぞれ必要な事項を記入してください。
③ 建築主が2以上のときは、3欄には代表となる建築主のみについて記入し、別紙に他の建築主についてそれぞれ必要な事項を記入して添えてください。
④ 4欄の郵便番号、所在地及び電話番号には、設計者が建築士事務所に属しているときはそれぞれ建築士事務所のもの、設計者が建築士事務所に属していないときはそれぞれ設計者のもの(所在地は住所とします。)を書いてください。
⑤ 5欄には、必須評価事項以外で設計住宅性能評価を希望する性能表示事項を記入してください。
⑥ 6欄には、住宅の品質確保の促進等に関する法律第6条の2の規定による長期使用構造等(長期優良住宅の普及の促進に関する法律(平成20年法律第87号)第2条第4項に規定する長期使用構造等をいう。)であることの確認の要否について、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
⑦ 6欄において、「要」のチェックボックスに「レ」マークを入れた場合は、7欄に工事の着手予定年月日及び認定申請予定年月日について記載してください。

4. 第三面関係
① 1欄は、地名地番と併せて住居表示が定まっているときは、当該住居表示を括弧書きで併記してください。
② 2欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。ただし、建築物の敷地が都市計画区域、準都市計画区域又はこれらの区域以外の区域のうち2以上の区域にわたる場合においては、当該敷地の過半の属する区域について記入してください。なお、当該敷地が3の区域にわたる場合で、かつ、当該敷地の過半の属する区域がない場合においては、都市計画区域又は準都市計画区域のうち、当該敷地の属

する面積が大きい区域について記入してください。

- ③ 3欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。なお、建築物の敷地が防火地域、準防火地域又は指定のない区域のうち2以上の地域又は区域にわたるときは、それぞれの地域又は区域について記入してください。
- ④ 第二面6欄において、「要」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、かつ、6欄において「共同住宅等」のチェックボックスに「レ」マークを入れた場合は、12欄に区分所有住宅であるかどうかについて記載してください。
- ⑤ 10欄の「利用関係」は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。なお、利用関係が未定の場合は、予定する利用関係としてください。また、「持家」、「貸家」、「給与住宅」、「分譲住宅」とは、次のとおりです。
- イ. 持家 建築主が自ら居住する目的で建築する住宅
- ロ. 貸家 建築主が賃貸する目的で建築する住宅
- ハ. 給与住宅 会社、官公署等がその社員、職員等を居住させる目的で建築する住宅
- ニ. 分譲住宅 建売り又は分譲の目的で建築する住宅
- ⑥ ここに書き表せない事項で、評価に当たり特に注意を要する事項は、11欄又は別紙に記載して添えてください。
- ⑦ 変更設計住宅性能評価に係る申請の際は、12欄に第三面に係る部分の変更の概要について記入してください。

5. 第四面関係

- ① 1欄は、住戸の数が1のときは「1」と記入し、住戸の数が2以上のときは、申請住戸ごとに通し番号を付し、その番号を記入してください。
- ② 4欄及び5欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- ③ ここに書き表せない事項で、評価に当たり特に注意を要する事項は、6欄又は別紙に記載して添えてください。
- ④ 変更設計住宅性能評価に係る申請の際は、7欄に第四面に係る部分の変更の概要について記入してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

- 2 第二面から第四面までについては、建築確認等の制度の申請書の写しに必要事項を補うこと、複数の住戸に関する情報を集約して記載すること等により記載すべき事項のすべてが明示された別の書面をもって代えることができます。
- 3 共同住宅等に係る設計住宅性能評価の申請にあつては、第四面を申請に係る住戸ごとに作成した場合、この申請書を共同住宅等一棟又は複数の住戸につき一部とすることができます。

第五号様式(第三条関係)

変更設計住宅性能評価申請書 (第一面)

年 月 日

登録住宅性能評価機関 殿

申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

下記の住宅について、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第3条第1項の規定に基づき、変更設計住宅性能評価を申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

記

【計画を変更する住宅の直前の設計住宅性能評価】

1. 設計住宅性能評価書交付番号 第 号
2. 設計住宅性能評価書交付年月日 年 月 日
3. 設計住宅性能評価書交付者
4. 変更の概要

※受付欄	※料金額
年 月 日	
第 号	
申請受理者氏名	

(注意) ① 数字は算用数字を用いてください。

② ※印のある欄は記入しないでください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

- 2 共同住宅等に係る変更設計住宅性能評価の申請にあつては、この申請書を共同住宅等一棟又は複数の住戸につき一部とすることができます。

第六号様式(第四条関係)

住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第4条第2項の通知書

第 年 月 日

申請者 様

登録住宅性能評価機関 印

別添の設計住宅性能評価申請書及びその添付図書に記載の住宅については、下記の理由により設計住宅性能評価書を交付できませんので、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第4条第2項の規定に基づき、通知書を交付します。
(理由)

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。
2 一の申請者に対し、共同住宅等の複数の住戸に係る通知書を交付する場合、この通知書を一部とすることができます。

第七号様式(第五条関係)

建設住宅性能評価申請書(新築住宅)

(第一面)

第 年 月 日

登録住宅性能評価機関 殿

申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第5条第1項の規定に基づき、建設住宅性能評価を申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実に相違ありません。

工事施工者の氏名又は名称
代表者の氏名
工事監理者の氏名

※受付欄	※料金欄
年 月 日	
第 号	
申請受理者氏名	

(第二面)

申請者等の概要

【1. 申請者】
【氏名又は名称のフリガナ】
【氏名又は名称】
【郵便番号】
【住所】
【電話番号】

【2. 代理者】
【氏名又は名称のフリガナ】
【氏名又は名称】
【郵便番号】
【住所】
【電話番号】

【3. 建築主】
【氏名又は名称のフリガナ】
【氏名又は名称】
【郵便番号】
【住所】
【電話番号】

【4. 設計者】
【資格】 ()建築士 ()登録 号
【氏名】

【建築士事務所名】	()	建築士事務所()	知事登録第	号
【郵便番号】				
【所在地】				
【電話番号】				

【5. 工事監理者】				
【資格】	()	建築士	()	登録
【氏名】				
【建築士事務所名】	()	建築士事務所()	知事登録第	号
【郵便番号】				
【所在地】				
【電話番号】				

【6. 工事施工者】				
【氏名又は名称】				
【営業所名】	建設業の許可()	第		号
【郵便番号】				
【所在地】				
【電話番号】				

【7. 建設住宅性能評価を希望する性能表示事項】				
--------------------------	--	--	--	--

【8. 備考】				
---------	--	--	--	--

(第三面)

申請する工事の概要				
-----------	--	--	--	--

【1. 建築場所の地名地番】				
----------------	--	--	--	--

【2. 設計住宅性能評価書の交付番号】	第		号	
---------------------	---	--	---	--

【3. 設計住宅性能評価書交付年月日】		年	月	日
---------------------	--	---	---	---

【4. 設計住宅性能評価書交付者】				
-------------------	--	--	--	--

【5. 確認済証番号】	第		号	
-------------	---	--	---	--

【6. 確認済証交付年月日】		年	月	日
----------------	--	---	---	---

【7. 確認済証交付者】				
--------------	--	--	--	--

【8. 工事着手(予定)年月日】		年	月	日
------------------	--	---	---	---

【9. 工事完了(予定)年月日】		年	月	日
------------------	--	---	---	---

【10. 検査対象工程工事終了予定年月日】	検査時期			
(第 回)	年 月 日()			
(第 回)	年 月 日()			
(第 回)	年 月 日()			
(第 回)	年 月 日()			

【11. その他必要な事項】				
----------------	--	--	--	--

【12. 備考】

(注意)
1. 第一面関係
※印のある欄は記入しないでください。
2. 第二面関係
① 申請者からの委任を受けて申請を代理で行う者がいる場合においては、2欄に記入してください。
② 申請者が2以上のときは、1欄は代表となる申請者のみについて記入し、別紙に他の申請者についてそれぞれ必要な事項を記入してください。
③ 建築主が2以上のときは、3欄は代表となる建築主について記入し、別紙に他の建築主についてそれぞれ必要な事項を記入して添えてください。
④ 4欄及び5欄の郵便番号、所在地及び電話番号には、設計者又は工事監理者が建築士事務所に属しているときはそれぞれ建築士事務所のもの、設計者又は工事監理者が建築士事務所に属していないときはそれぞれ設計者又は工事監理者のもの(所在地は住所とします。)を書いてください。
⑤ 7欄は、必須評価事項以外で建設住宅性能評価を希望する性能表示事項を記入してください。
3. 第三面関係
① 1欄は、地名地番と併せて住居表示が定まっているときは、当該住居表示を括弧書きで併記してください。
② 5欄から7欄までは、確認済証が交付されていない場合は空欄としてください。
③ 8欄は、既に工事を着手している場合はその年月日を、それ以外の場合は予定日の年月日を記入してください。
④ 10欄は、検査の回数が5回以上の場合は、適宜記入欄を増やして記入してください。
⑤ ここに書き表せない事項で、評価に当たり特に注意を要する事項は、11欄又は別紙に記載して添えてください。
⑥ 変更建設住宅性能評価に係る申請の際は、12欄に第三面に係る部分の変更の概要について記入してください。

備考

1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。
2 第二面及び第三面については、建築確認等他の制度の申請書の写しに必要事項を補うこと、複数の住戸に関する情報を集約して記載すること等により記載すべき事項のすべてが明示された別の書面をもって代えることができます。
3 共同住宅等に係る建設住宅性能評価の申請にあっては、この申請書を共同住宅等一棟又は複数の住戸につき一部とすることができます。

第八号様式(第五条関係)

建設住宅性能評価申請書(既存住宅)

(第一面)

年 月 日

登録住宅性能評価機関 殿

申請者の氏名又は名称

代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第5条第1項の規定に基づき、建設住宅性能評価を申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

所有者の氏名又は名称

※受付欄	※料金額
年 月 日	
第 号	
申請受理者氏名	

(第二面)

申請者等の概要

【1. 申請者】

【氏名又は名称のフリガナ】

【氏名又は名称】

【郵便番号】

【住所】

【電話番号】

【2. 代理人】

【氏名又は名称のフリガナ】

【氏名又は名称】

【郵便番号】

【住所】

【電話番号】

【3. 所有者】

【氏名又は名称のフリガナ】

【氏名又は名称】

【郵便番号】

【住所】

【電話番号】

【4. 共用部分の管理者】

【氏名又は名称のフリガナ】

【氏名又は名称】

【郵便番号】

【住所】

【電話番号】

【5. 建設住宅性能評価を希望する性能表示事項】

【6. 長期使用構造等であることの確認の要否】 ☐要 ☐否

【7. 備考】

(第三面)

建築物に関する事項

【1. 住居表示】

【2. 建て方】 ☐一戸建ての住宅 ☐共同住宅等

【3. 住戸の数】

【建物全体】

【評価対象住戸】

【4. 建築物の階数】 地上() 地下()

【5. その他必要な事項】

【6. 備考】

(第四面)

住戸に関する事項

【1. 番号】

【2. 階】

【3. 利用関係】 ☐所有者が居住している

☐所有者以外の者が居住している ☐その他

【4. その他必要な事項】

【5. 備考】

(注意)

1. 各面共通関係

数字は算用数字を用いてください。

2. 第一面関係

※印のある欄は記入しないでください。

3. 第二面関係

① 申請者からの委任を受けて申請を代理で行う者がいる場合においては、2欄に記入してください。

② 4欄は、申請に係る住宅が共同住宅等の場合に限り、記載してください。

③ 5欄は、必須評価事項以外で建設住宅性能評価を希望する性能表示事項を記入してください。

④ 6欄には、住宅の品質確保の促進等に関する法律第6条の2第1項の規定による長期使用構造等(長期優良住宅の普及の促進に関する法律(平成20年法律第87号)第2条第4項に規定する長期使用構造等をいう。)であることの確認の要否について、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。

- ⑤ 6欄において、「要」のチェックボックスに「レ」マークを入れた場合においては、7欄に新築の時期について記載してください。増築・改築をした場合においては、その時期を併せて記載してください。

4. 第三面関係

- ① 第二面6欄において、「要」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、かつ、2欄において「共同住宅等」のチェックボックスに「レ」マークを入れた場合においては、6欄に区分所有住宅であるかどうかについて記載してください。
- ② ここに書き表せない事項で、評価に当たり特に注意を要する事項は、5欄又は別紙に記載して添えてください。

5. 第四面関係

- ① 1欄は、住戸の数が1のときは「1」と記入し、住戸の数が2以上のときは、申請住戸ごとに通し番号を付し、その番号を記入してください。
- ② ここに書き表せない事項で、評価に当たり特に注意を要する事項は、4欄又は別紙に記載して添えてください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

- 2 第二面から第四面までについては、建築確認等の制度の申請書の写しに必要な事項を補うこと。複数の住戸に関する情報を集約して記載すること等により記載すべき事項のすべてが明示された別の書面をもって代えることができます。

- 3 共同住宅等に係る建設住宅性能評価の申請にあつては、第四面を申請に係る住戸ごとに作成した場合、この申請書を共同住宅第一棟又は複数の住戸につき一部とすることができます。

第九号様式(第五条関係)

変更建設住宅性能評価申請書
(第一面)

年 月 日

登録住宅性能評価機関 殿

申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

下記の住宅について、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第5条第1項の規定に基づき、変更建設住宅性能評価を申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

工事施工者の氏名又は名称

代表者の氏名

工事監理者の氏名

【建設工事を変更する直前の建設住宅性能評価】

1. 建設住宅性能評価書交付番号 第 号
2. 建設住宅性能評価書交付年月日 年 月 日
3. 建設住宅性能評価書交付者
4. 変更の概要

※受付欄	※料金欄
年 月 日	
第 号	
申請受理者氏名	

(注意)

- ① 数字は算用数字を用いてください。
- ② ※印のある欄は記入しないでください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

- 2 共同住宅等に係る変更建設住宅性能評価の申請にあつては、この申請書を共同住宅等一棟又は複数の住戸につき一部とすることができます。

第十号様式(第六条関係)

検査報告書

申請者様登録住宅性能評価機関印

年 月 日

下記の検査対象工程に係る工事について、評価方法基準に基づく検査を行ったので、その結果を報告します。

記

第 年 月 日

1. 設計住宅性能評価書交付番号

2. 設計住宅性能評価書交付年月日

3. 設計住宅性能評価書交付者

4. 建築場所

5. 検査を行った住宅の名称、構造の種別その他概要

6. 検査対象工程に係る工事

7. 検査年月日 年 月 日

8. 検査を行った評価員の氏名

9. 検査結果(不適合の場合は事由を記載)

10. 備考

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 数字は算用数字を用いてください。

3 一の申請者に対し、共同住宅等の複数の住戸に係る報告を行う場合、この報告書を一部とすることができます。

第十一号様式(第七条関係)

住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第7条第2項の通知書

第 号

年 月 日

申請者様登録住宅性能評価機関印

別添の建設住宅性能評価申請書及びその添付図書に記載の住宅については、下記の理由により建設住宅性能評価書を交付できませんので、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第7条第2項の規定に基づき、通知書を交付します。

(理由)

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 一の申請者に対し、共同住宅等の複数の住戸に係る通知書を交付する場合、この通知書を一部とすることができます。

第十一号の二様式(第七条の二関係)

確認申請書
(新築／増築・改築／既存)
(第一面)

登録住宅性能評価機関 殿

年 月 日

申請者の住所又は
主たる事務所の所在地
申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第6条の2第1項の規定に基づき、本申請に係る住宅の構造及び設備が長期使用構造等(長期優良住宅の普及の促進に関する法律(平成20年法律第87号)第2条第4項に規定する長期使用構造等をいう。)であることの確認を行うことを求めます。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

※受付欄	※料金欄
年 月 日	
第 号	
申請受理者氏名	

(注意)

1. この様式において、「既存」とは、本申請が、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第6項又は第7項の規定による認定の申請に係るものであることを指します。また、「一戸建ての住宅」は、人の居住の用以外の用途に供する部分を有しないものに限り、「共同住宅等」とは、共同住宅、長屋その他の一戸建ての住宅以外の住宅をいいます。

2. 共同住宅等に係る申請にあつては、第三面に申請に係る住戸(認定を求める住戸)ごとに作成してください。

3. 数字は算用数字を、単位はメートル法を用いてください。

4. ※印のある欄は記入しないでください。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

(第二面：長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第1項から第5項までの規定による認定の申請をしようとする場合)

1. 建築をしようとする住宅の位置、構造及び設備並びに規模等に関する事項
〔建築物に関する事項〕

【1. 地名地番】			
【2. 名称】			
【3. 敷地面積】	㎡		
【4. 工事種別】	☐ 新築	☐ 増築・改築	
【5. 建築面積】	㎡		
【6. 床面積の合計】	㎡		
【7. 建て方】	☐ 一戸建ての住宅	☐ 共同住宅等	
【共同住宅等の場合：住戸の数】	建築物全体	戸	
	申請対象住戸	戸	
【8. 区分所有住宅の該当の有無】	☐ 無	☐ 有	
【9. 建築物の高さ等】			
【最高の高さ】			
【最高の軒の高さ】			
【階数】	(地上)	階 (地下)	階
【10. 構造】	造	一部	造
【11. 長期使用構造等に係る構造及び設備の概要】 別添設計内容説明書による			
【12. 建築に関する工事の着手の予定年月日】			
年 月 日			
【13. 認定申請予定日】			
年 月 日			

(注意)

1. 【4. 工事種別】及び【7. 建て方】の欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。

2. 【8. 区分所有住宅の該当の有無】の欄は、【7. 建て方】の欄において、「共同住宅等」のチェックボックスに「レ」マークを入れた場合は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。

3. 【13. 認定申請予定日】については、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第1項から第5項までの規定による認定申請予定日を記載してください。

4. この面は、建築確認等他の制度の申請書の厚しに必要事項を補うこと等により記載すべき事項の全てが明示された別の書面をもって代えることができます。

(第二面：長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第6項又は第7項の規定による認定の申請をしようとする場合)

1. 維持保全をしようとする住宅の位置、構造及び設備並びに規模等に関する事項

(建築物に関する事項)

【1. 地名地番】			
【2. 名称】			
【3. 敷地面積】	㎡		
【4. 建築面積】	㎡		
【5. 床面積の合計】 ㎡			
【6. 建て方】	☐ 一戸建ての住宅	☐ 共同住宅等	
【共同住宅等の場合：住戸の数】	建築物全体	戸	
	申請対象住戸	戸	
【7. 区分所有住宅の該当の有無】 ☐ 無 ☐ 有			
【8. 建築物の高さ等】			
【最高の高さ】			
【最高の軒の高さ】			
【階数】	(地上)	階 (地下)	階
【9. 構造】	造	一部	造
【10. 長期使用構造等に係る構造及び設備の概要】 別添設計内容説明書による			
【11. 新築又は増築・改築の時期】			
【新築の時期】	年	月	日
【増築・改築の時期】	年	月	日
【12. 認定申請予定日】	年	月	日

(注意)

- 【6. 建て方】の欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- 【7. 区分所有住宅の該当の有無】の欄は、【6. 建て方】の欄において、「共同住宅等」のチェックボックスに「レ」マークを入れた場合は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- 【12. 認定申請予定日】については、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第6項又は第7項の規定による認定申請予定日を記載してください。

(第三面)

(申請に係る共同住宅等の住戸に関する事項)

【1. 住戸の番号】
【2. 住戸の存する階】 階
【3. 当該住戸への経路】
【共用階段】 ☐ 無 ☐ 有
【共用廊下】 ☐ 無 ☐ 有
【エレベーター】 ☐ 無 ☐ 有

(注意)

- この面は、共同住宅等に係る申請の場合に作成してください。
- この面は、申請対象住戸について作成してください。
- 【3. 当該住戸への経路】の欄は該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- この面は、住宅性能表示等他の制度の申請書の写しに必要事項を補うこと、複数の住戸に関する情報を集約して記載すること等により記載すべき事項の全てが明示された別の書面をもって代えることができます。

第十一号の三様式(第七条の二関係)

変更確認申請書
(新築／増築・改築／既存)
(第一面)

年 月 日

登録住宅性能評価機関 殿

申請者の住所又は
主たる事務所の所在地
申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

下記の住宅について、住宅の品質確保の促進等に関する法律第6条の2第1項の規定に基づき、変更確認を行うことを求めます。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

記

【計画を変更する住宅の直前の(確認書・住宅性能評価書)】

1. 確認書又は住宅性能評価書交付番号 第 号

2. 確認書又は住宅性能評価書交付年月日 年 月 日

3. 確認書又は住宅性能評価書交付者

4. 確認書又は住宅性能評価に係る住宅の位置

5. 確認書又は住宅性能評価に係る住宅が共同住宅等である場合は、区分所有住宅の該当の有無

6. 当初確認時又は住宅性能評価時の工事種別

7. 当初確認又は住宅性能評価における新築又は当初確認若しくは住宅性能評価を受ける前にした増築・改築の時期

8. 変更の概要

※受付欄	※料金欄
年 月 日	
第 号	
申請受理者氏名	

(注意)

① この様式において、「既存」とは、本申請が、長期優良住宅の普及の促進に関する法律(平成20年法律第87号)第5条第6項又は第7項の規定による認定の申請に係るものであることを指します。また、「一戸建ての住宅」は、人の居住の用以外の用途に供する部分を有しないものに限り、「共同住宅等」とは、共同住宅、長屋その他の一戸建ての住宅以外の住宅をいいます。

② 【計画を変更する住宅の直前の(確認書・住宅性能評価書)】については、「確認書」又は「住宅性能評価書」の該当するいずれかを○で囲んでください。

③ 6欄は、本申請が、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第1項から第5項までの規定による認定の申請に係る場合に記載してください。

④ 7欄は、本申請が、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第6項又は第7項の規定による認定の申請に係る場合に記載してください。

⑤ 数字は算用数字を用いてください。

⑥ ※印のある欄は記入しないでください。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第十一号の四様式(第七条の四関係)

住宅の品質確保の促進等に関する法律第6条の2第3項の規定による
長期使用構造等である旨の確認書
(新築／増築・改築／既存)

第 号
年 月 日

申請者 殿

登録住宅性能評価機関 印

別添の確認申請書に記載の住宅の構造及び設備については、長期優良住宅の普及の促進に関する法律(平成20年法律第87号)第2条第4項に規定する長期使用構造等であることを確認しました。

記

1. 申請年月日

2. 確認を行った住宅の所在地及び名称

3. 確認を行った住宅の階数、延べ面積及び構造

4. 確認を行った住宅が共同住宅等である場合は、区分所有住宅の該当の有無

5. 長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第1項から第5項までの規定による認定の申請に係る住宅の確認を行った場合は、当初確認時又は住宅性能評価時の工事種別

6. 長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第6項又は第7項の規定による認定の申請に係る住宅の確認を行った場合は、新築又は当初確認若しくは住宅性能評価を受ける前にした増築・改築の時期

7. 確認を行った評価員の氏名

8. 確認対象住戸

9. 申請対象住戸のうち、上記確認対象住戸に該当しない住戸

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

(注意)この確認書は、大切に保存しておいてください。

第十一号の様式(第七条の四関係)

住宅の品質確保の促進等に関する法律第6条の2第3項の規定による
長期使用構造等でない旨の確認書
(新築／増築・改築／既存)

第 年 月 日

申請者 殿

登録住宅性能評価機関 印

別添の確認申請書に記載の住宅の構造及び設備については、下記の理由により長期優良住宅の普及の促進に関する法律(平成20年法律第87号)第2条第4項に規定する長期使用構造等でないことを確認しました。

記

1. 申請年月日

2. 確認を行った住宅の所在地及び名称

3. 確認を行った住宅の階数、延べ面積及び構造

4. 長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第1項から第5項までの規定による認定の申請に係る住宅の確認を行った場合は、当初確認時又は住宅性能評価時の工事種別

5. 長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条第6項又は第7項の規定による認定の申請に係る住宅の確認を行った場合は、新築又は当初確認若しくは住宅性能評価を受ける前にした増築・改築の時期

6. 確認を行った評価員の氏名

(理由)

第十二号様式(第八条関係)

登録住宅性能評価機関登録申請書

年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の住所
申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第7条第1項に規定する登録を受けたいので、同条第2項の規定に基づき、申請します。

1. 登録を受けようとする区分

2. 評価の業務を行う事務所の所在地

3. 評価員の氏名

4. 役員の氏名(申請者が法人である場合に限り。)

5. 評価の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

6. 評価の業務を行う区域

7. 評価の業務を開始しようとする年月日

(注意)

申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 第8条各号に掲げる書類を添付してください。

第十三号様式(第八条関係)

評価の業務の計画棟数

業 務 の 区 分	計 画 棟 数
一 建築士法第三条第一項第二号から第四号までに掲げる建築物である住宅	設計住宅性能評価 棟
	建設住宅性能評価 棟
二 建築士法第三条の二第一項各号に掲げる建築物である住宅(前号に掲げる住宅を除く。)	設計住宅性能評価 棟
	建設住宅性能評価 棟
三 前二号に掲げる住宅以外の住宅	設計住宅性能評価 棟
	建設住宅性能評価 棟

(注登)

① 事業年度に行う計画棟数を記載してください。

② 登録の更新の場合には、前事業年度の実績を記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 設計住宅性能評価及び建設住宅性能評価を行う棟数の計画の根拠を示す書類を添付してください。(登録の更新の場合を除く。)

第十四号様式(第十二条関係)

登録住宅性能評価機関変更届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届 出 者 の 住 所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

下記のとおり、

(1) 氏名又は名称及び住所並びに代表者の氏名

(2) 評価の業務を行う事務所の所在地

(3) 評価員の氏名

(4) 役員の氏名(申請者が法人である場合に限り。)

(5) 評価の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

(6) 評価の業務を行う区域

を変更するので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第10条第2項の規定に基づき、届け出ます。

記

1. 変更事項

届 出 事 項	変 更 前	変 更 後	変 更 予 定 日 年 月	備 考

2. 変更の理由

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第十五号様式(第十三条関係)

登録住宅性能評価機関登録更新申請書

年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の住所
申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

登録の更新を受けたいので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第11条第1項の規定に基づき、申請します。

1. 登録番号

2. 登録の有効期限 年 月 日

3. 登録の区分

4. 評価の業務を行う事務所の所在地

5. 評価員の氏名

6. 役員の氏名(申請者が法人である場合に限る。)

7. 評価の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

8. 評価の業務を行う区域

(注意)

申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 第8条各号に掲げる書類を添付してください。

第十六号様式(第十四条関係)

登録住宅性能評価機関事業承継届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第12条第2項の規定に基づき、次のとおり届け出ます。

承 継 の 原 因		
被承継者に 関する事項	氏 名 又 は 名 称	
	法 人 に あ っ て は その代表者の氏名	
	住 所	
	登録の年月日及び登録番号	
	事 務 所 の 所 在 地	
承継者に 関する事項	登録の年月日及び登録番号	

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第十七号様式(第十四条関係)

登録住宅性能評価機関事業譲渡証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

譲り渡した者 氏名又は名称及び法人にあつては、その代表者の氏名住所

譲り受けた者 氏名又は名称及び法人にあつては、その代表者の氏名住所

次のとおり登録住宅性能評価機関の事業の全部の譲渡がありましたことを証明します。

1. 登録の年月日

2. 登録番号

3. 譲渡しの年月日

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第十八号様式(第十四条関係)

登録住宅性能評価機関事業相続同意証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

証明者 氏名住所

次のとおり登録住宅性能評価機関について相続がありましたことを証明します。

1. 被相続人の氏名及び住所

2. 登録の年月日

3. 登録番号

4. 登録住宅性能評価機関の地位を承継する者として選定された者の氏名及び住所

5. 相続開始の年月日

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 証明書は、登録住宅性能評価機関の地位を承継する者と選定された者以外の相続人全員の氏名を記載してください。

第十九号様式(第十四条関係)

登録住宅性能評価機関事業相続証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

証明者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所
氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

次のとおり登録住宅性能評価機関について相続がありましたことを証明します。

1. 被相続人の氏名及び住所

2. 登録の年月日

3. 登録番号

4. 登録住宅性能評価機関の地位を承継した者の氏名及び住所

5. 相続開始の年月日

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 証明者は、2人以上としてください。

第二十号様式(第十四条関係)

登録住宅性能評価機関事業承継証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

被承継者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

承継者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

次のとおり分割によって登録住宅性能評価機関の事業の全部の承継がありましたことを証明します。

1. 登録の年月日

2. 登録番号

3. 承継の年月日

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第二十一号様式(第十六条関係)

登録住宅性能評価機関評価業務規程届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届 出 者 の 住 所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

評価業務規程を定めたので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第16条第1項前段の規定に基づき、別添のとおり届け出ます。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。
2 届出に係る評価業務規程を添付してください。

第二十二号様式(第十六条関係)

登録住宅性能評価機関評価業務規程変更届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届 出 者 の 住 所
届出者の氏名又は名称
代表者氏名

評価業務規程を変更したので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第16条第1項後段の規定に基づき、別添のとおり届け出ます。

1. 変更の内容

2. 変更の理由

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。
2 変更前及び変更後を対照した新旧条文の対照表を添付してください。

第二十三号様式（第十七条関係）
機関票（1）（確認の業務を行う場合）

確認の業務を行う場合における登録住宅性能評価機関票

この標識は、登録住宅性能評価機関としての登録の主要な内容と、業務の内容を表示しています。

登録の区分	
登録番号	第 号
登録の有効期間	年 月 日から 年 月 日まで
氏名又は名称	
代表者の氏名	
主たる事務所の所在地	電話番号 （ ）
実施する住宅性能評価の種類	
住宅性能評価を行う住宅の種類	
住宅性能評価を行う区域	
確認を行う住宅の種類	
確認を行う区域	

機関票（2）（確認の業務を行わない場合）

確認の業務を行わない場合における登録住宅性能評価機関票

この標識は、登録住宅性能評価機関としての登録の主要な内容と、業務の内容を表示しています。

登録の区分	
登録番号	第 号
登録の有効期間	年 月 日から 年 月 日まで
氏名又は名称	
代表者の氏名	
主たる事務所の所在地	電話番号 （ ）
実施する住宅性能評価の種類	
住宅性能評価を行う住宅の種類	
住宅性能評価を行う区域	

備考 1 確認を行う機関にあっては機関票1を、確認を行わない機関にあっては機関票2を掲示してください。
2 確認の業務とは、住宅の品質確保の促進等に関する法律（平成11年法律第81号）第6条の2第3項又は第4項の規定による確認をいいます。
3 標識を事務所ごとに公衆の見やすい場所に掲示する場合における当該標識の大きさは、機関票1にあっては縦50cm以上、横40cm以上と、機関票2にあっては縦45cm以上、横40cm以上としてください。

第二十四号様式(第二十二条関係)
登録住宅性能評価機関業務休止届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所

届出者の氏名又は名称

代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第23条第1項の規定に基づき、評価の業務の一部(全部)の休止(廃止)をするので、次のとおり届け出ます。

1. 休止(廃止)しようとする評価の業務の範囲

2. 休止(廃止)しようとする年月日

3. 休止しようとする場合にあっては、その期間

4. 休止(廃止)の理由

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第二十五号様式(第二十四条関係)

登録講習機関登録申請書

年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の住所
申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第25条第1項に規定する登録を受けたいので、同項の規定に基づき、申請します。

1. 講習の業務を行う事務所の所在地

2. 役員の氏名(申請者が法人である場合に限り。)

3. 講習の業務を開始しようとする年月日

(注意)

申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 第24条各号に掲げる書類を添付してください。

第二十六号様式(第二十七条関係)

登録講習機関変更届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

下記のとおり、

(1) 氏名又は名称及び住所並びに代表者の氏名

(2) 講習の業務を行う事務所の所在地

(3) 役員の氏名(申請者が法人である場合に限り。)

を変更するので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第25条第2項において準用する同法第10条第2項の規定に基づき、届け出ます。

記

1. 変更事項

届出事項	変更前	変更後	変更予定年月日	備考

2. 変更の理由

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第二十七号様式(第二十八条関係)

登録講習機関登録更新申請書

年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の住所
申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

登録の更新を受けたいので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第25条第2項において準用する同法第11条第1項の規定に基づき、申請します。

1. 登録番号

2. 登録の有効期限 年 月 日

3. 講習の業務を行う事務所の所在地

4. 役員の氏名(申請者が法人である場合に限り。)

(注意)

申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 第24条各号に掲げる書類を添付してください。

第二十八号様式(第二十九条関係)

登録講習機関事業承継届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第25条第2項において準用する同法第12条第2項の規定に基づき、次のとおり届け出ます。

承 継 の 原 因		
被承継者に 関する事項	氏 名 又 は 名 称	
	法 人 に あ っ て は そ の 代 表 者 の 氏 名	
	住 所	
	登録の年月日及び登録番号	
	事 務 所 の 所 在 地	
承継者に 関する事項	登録の年月日及び登録番号	

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第二十九号様式(第二十九条関係)

登録講習機関事業譲渡証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

譲り渡した者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

譲り受けた者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

次のとおり登録講習機関の事業の全部の譲渡がありましたことを証明します。

1. 登録の年月日

2. 登録番号

3. 譲渡しの年月日

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第三十号様式(第二十九条関係)

登録講習機関事業相続同意証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

証明者 氏名
住所

次のとおり登録講習機関について相続がありましたことを証明します。

1. 被相続人の氏名及び住所

2. 登録の年月日

3. 登録番号

4. 登録講習機関の地位を承継する者として選定された者の氏名及び住所

5. 相続開始の年月日

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 証明書は、登録講習機関の地位を承継する者と選定された者以外の相続人全員の氏名を記載してください。

第三十一号様式(第二十九条関係)

登録講習機関事業相統証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

証明者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所
氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

次のとおり登録講習機関について相統がありましたことを証明します。

1. 被相統人の氏名及び住所

2. 登録の年月日

3. 登録番号

4. 登録講習機関の地位を承継した者の氏名及び住所

5. 相統開始の年月日

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 証明者は、2人以上としてください。

第三十二号様式(第二十九条関係)

登録講習機関事業承継証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

被承継者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

承 継 者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

次のとおり分割によって登録講習機関の事業の全部の承継がありましたことを証明します。

1. 登録の年月日

2. 登録番号

3. 承継の年月日

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第三十三号様式(第三十条関係)
修了証
年 月 日
氏 名
生年月日 年 月 日
この者は、住宅の品質確保の促進等に関する法律第13条の講習の課程を修了した者であることを証します。
修了証の番号 第 号
登録講習機関
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第三十四号様式(第三十一条関係)
登録講習機関講習業務規程届出書
年 月 日
国土交通大臣 殿
届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名
講習業務規程を定めたので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第25条第2項において準用する同法第16条第1項前段の規定に基づき、別添のとおり届け出ます。
備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。
2 届出に係る講習業務規程を添付してください。

第三十五号様式(第三十一条関係)

登録講習機関講習業務規程変更届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

講習業務規程を変更したので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第25条第2項において準用する同法第16条第1項後段の規定に基づき、別添のとおり届け出ます。

1. 変更の内容

2. 変更の理由

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 変更前及び変更後を対照した新旧条文の対照表を添付してください。

第三十六号様式(第三十五条関係)

登録講習機関業務休廃止届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第25条第2項において準用する同法第23条第1項の規定に基づき、評価の業務の一部(全部)の休止(廃止)をするので、次のとおり届け出ます。

1. 休止(廃止)しようとする講習の業務の範囲

2. 休止(廃止)しようとする年月日

3. 休止しようとする場合にあっては、その期間

4. 休止(廃止)の理由

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第三十七号様式(第四十条関係)

住宅型式性能認定申請書

年 月 日

国土交通大臣
登録住宅型式性能認定等機関 殿

申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第31条第1項の規定による住宅型式性能認定を受けたいので、次のとおり申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

記

1. 認定を受けたい型式に係る住宅又はその部分の種類

2. 認定を受けたい型式に係る性能表示事項

3. 備考

(注意)

① 不要な文字は、抹消してください。

② 申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

③ 備考欄には、当該申請以外に住宅型式性能認定を受けようとしている旨を記載する等所要の事項を記載して下さい。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 登録外国住宅型式性能認定等機関が、業務の円滑な実施を図るため必要な範囲内でこの様式の一部を変更した場合は、それによることができます。

3 各欄に記載すべき事項は、別紙により提出することができます。

4 国土交通大臣に申請する場合は、この申請書の右上に手数料の額に相当する収入印紙(消印をしていないものに限る。)を貼付してください。

第三十八号様式(第四十一条関係)

住宅型式性能認定書

第 号
年 月 日

申請者 様

国土交通大臣
登録住宅型式性能認定等機関 印

下記の型式については、住宅の品質確保の促進等に関する法律第31条第1項の規定に基づき、日本住宅性能表示基準に従って表示すべき性能を有するものであることを認定する。

記

1. 認定番号

2. 認定をした型式に係る住宅又はその部分の種類

3. 認定をした型式に係る性能表示事項

4. 住宅に係る住宅型式性能認定にあつては、認定をした型式の性能

5. 備考

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 登録外国住宅型式性能認定等機関は、業務の円滑な実施を図るため必要な範囲内でこの様式の一部を変更することができます。

3 不要な文字は、抹消してください。

4 各欄に記載すべき事項は、別紙によることができます。

第三十九号様式(第四十一条関係)

住宅型式性能認定をしない旨の通知書

第 年 月 日

申請者様

国土交通大臣

登録住宅型式性能認定等機関印

下記の申請については、下記の原因により住宅の品質確保の促進等に関する法律第31条第1項の規定による住宅型式性能認定をしないこととしたので、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第41条第2項の規定に基づき、通知書を交付します。

なお、この処分に不服があるときは、国土交通大臣が行った処分についてはこの通知を受けた日の翌日から起算して60日以内に国土交通大臣に対して異議申立てをすることができます。

記

1. 申請年月日

年 月 日

2. 申請に係る型式の概要

3. 理由

備考

1

この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2

登録外国住宅型式性能認定等機関は、業務の円滑な実施を図るため必要な範囲内でこの様式の一部を変更することができます。

3

不要な文字は、抹消してください。

4

各欄に記載すべき事項は、別紙によることができます。

第四十号様式(第四十三条関係)

型式住宅部分等製造者認証申請書

第 年 月 日

国土交通大臣

登録住宅型式性能認定等機関 殿

申請者の氏名又は名称

代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第33条第1項の規定による認証を受けたいので、次のとおり申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

記

1. 型式住宅部分等の種類

2. 型式住宅部分等に係る住宅型式性能認定の認定番号及び認定年月日

認定番号 第 号

認定年月日 年 月 日

3. 工場その他の事業場の名称及び所在地

4. 技術的生産条件に関する事項

5. 備考

(注意)

①

不要な文字は、抹消してください。

②

申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

③

備考欄には、当該申請以外に認証を受けようとしている旨を記載する等所要の事項を記載してください。

備考

1

この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2

登録外国住宅型式性能認定等機関が、業務の円滑な実施を図るため必要な範囲内でこの様式の一部を変更した場合は、それによることができます。

3

各欄に記載すべき事項は、別紙により提出することができます。

4

国土交通大臣に申請する場合は、この申請書の右上に手数料の額に相当する収入印紙(消印をしていないものに限る。)を貼付してください。

第四十一号様式(第四十五条関係)

型式住宅部分等製造者認証書

第 号

年 月 日

申請者 様

国土交通大臣

登録住宅型式性能認定等機関 印

住宅の品質確保の促進等に関する法律第33条第1項の規定に基づき、下記のとおり型式住宅部分等の製造者としての認証を行う。

記

1. 認証番号

2. 認証をした型式住宅部分等の種類

3. 認証をした型式住宅部分等に係る性能表示事項

4. 住宅である型式住宅部分等については、当該認証を受けた型式住宅部分等の性能

5. 認証の有効期限 年 月 日

6. 備考

備考

1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 登録外国住宅型式性能認定等機関は、業務の円滑な実施を図るため必要な範囲内でこの様式の一部を変更することができます。

3 不要な文字は、抹消してください。

4 各欄に記載すべき事項は、別紙によることができます。

第四十二号様式(第四十五条関係)

認証をしない旨の通知書

第 号

年 月 日

申請者 様

国土交通大臣

登録住宅型式性能認定等機関 印

下記の申請については、下記の理由により住宅の品質確保の促進等に関する法律第33条第1項の規定による型式住宅部分等の製造者としての認証をしないこととしたので、同法施行規則第45条第2項の規定により通知書を交付します。

なお、この処分不服があるときは、国土交通大臣が行った処分についてはこの通知を受けた日の翌日から起算して60日以内に国土交通大臣に対して異議申立てをすることができます。

記

1. 申請年月日 年 月 日

2. 申請に係る型式住宅部分等の概要

3. 理由

備考

1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 登録外国住宅型式性能認定等機関は、業務の円滑な実施を図るため必要な範囲内でこの様式の一部を変更することができます。

3 不要な文字は、抹消してください。

4 各欄に記載すべき事項は、別紙によることができます。

第四十三号様式(第四十七条関係)

認証型式住宅部分等製造者更新申請書

年 月 日

国土交通大臣

登録住宅型式性能認定等機関 殿

申請者の氏名又は名称
代 表 者 の 氏 名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第36条第1項の規定による認証の更新を受けたいので、次のとおり申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

記

1. 当該認証型式住宅部分等の認証番号及び認証年月日
認証番号 第 号 認証年月日 年 月 日

2. 型式住宅部分等に係る住宅型式性能認定の認定番号及び認定年月日
認定番号 第 号 認定年月日 年 月 日

3. 工場その他の事業場の名称及び所在地

4. 技術的生産条件に関する事項

5. 備考

(注意)

① 不要な文字は、抹消してください。

② 申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

③ 備考欄には、当該申請以外に認証を受けようとしている旨を記載する等所要の事項を記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 登録外国住宅型式性能認定等機関が、業務の円滑な実施を図るため必要な範囲内でこの様式の一部を変更した場合は、それによることができます。

3 各欄に記載すべき事項は、別紙により提出することができます。

4 国土交通大臣に申請する場合は、この申請書の右上に手数料の額に相当する収入印紙(消印をしていないもの)に限る。)を貼付してください。

第四十四号様式(第四十八条関係)

認証型式住宅部分等製造者変更届出書

年 月 日

国土交通大臣

登録住宅型式性能認定等機関 殿

届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第33条第2項の国土交通省令で定める事項に下記のとおり変更がありましたので、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、届け出ます。

記

1. 型式住宅部分等の種類

2. 型式住宅部分等の認証番号及び認証年月日
認証番号 第 号 認証年月日 年 月 日

3. 変更の内容及び理由

変更に係る事項	変 更 の 内 容		変 更 年 月 日	変 更 の 理 由
	変 更 前	変 更 後		

(注意)

届出者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 登録外国住宅型式性能認定等機関が、業務の円滑な実施を図るため必要な範囲内でこの様式の一部を変更した場合は、それによることができます。

3 各欄に記載すべき事項は、別紙により提出することができます。

第四十五号様式(第四十九条関係)

製造事業廃止届出書

年 月 日

国土交通大臣
登録住宅型式性能認定等機関 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

認証に係る型式住宅部分等の製造の事業を廃止するので、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第49条第1項の規定に基づき、届け出ます。

1. 認証番号

2. 製造の事業の廃止に係る型式部材等の種類

3. 廃止しようとする年月日

4. 廃止の理由

備考 この用紙の大きさは日本産業規格A4としてください。

第四十六号様式(第五十二条関係)

住宅品質確保促進法	↑
(認証番号)	2cm以上
(認証年月日)	↑
2cm以上	

(注意)

① 大きさは、表示を容易に識別することができるものであること。

② 材料は、容易に損傷しないものであること。

③ 色彩は、適宜とする。ただし、表示を容易に識別することができるものであること。

④ 認証の更新を受けた認証型式住宅部分等製造者が製造をした型式住宅部分等については、認証年月日の欄に更新年月日を記載すること。

第四十七号様式(第五十八条関係)

登録住宅型式性能認定等機関登録申請書

年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の住所
申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第44条第1項に規定する登録を受けたいので、同条第2項の規定に基づき、申請します。

1. 登録を受けようとする区分

2. 認定等の業務を行う事務所の所在地

3. 認定員の氏名

4. 役員の氏名(申請者が法人である場合に限り。)

5. 認定等の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

6. 認定等の業務を開始しようとする年月日

(注意)

申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 第58条各号に掲げる書類を添付してください。

第四十八号様式(第六十一条関係)

登録住宅型式性能認定等機関変更届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

下記のとおり、

(1) 氏名又は名称及び住所並びに代表者の氏名

(2) 認定等の業務を行う事務所の所在地

(3) 認定員の氏名

(4) 役員の氏名(申請者が法人である場合に限り。)

(5) 認定等の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

を変更するので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第44条第3項において準用する同法第10条第2項の規定に基づき、届け出ます。

記

1. 変更事項

届出事項	変 更 前	変 更 後	変更予定年月日	備 考

2. 変更の理由

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第四十九号様式(第六十二条関係)

登録住宅型式性能認定等機関登録更新申請書

年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の住所
申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

登録の更新を受けたいので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第44条第3項において準用する同法第11条第1項の規定に基づき、申請します。

1. 登録番号

2. 登録の有効期限

3. 登録の区分

4. 認定等の業務を行う事務所の所在地

5. 認定員の氏名

6. 役員の氏名(申請者が法人である場合に限り。)

7. 認定等の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

年 月 日

(注意)

申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 第58条各号に掲げる書類を添付してください。

第五十号様式(第六十三条関係)

登録住宅型式性能認定等機関事業承継届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第44条第3項において準用する同法第12条第2項の規定により、次のとおり届け出ます。

承 継 の 原 因	
被承継者に 関する事項	氏 名 又 は 名 称
	法 人 に あ っ て は その代表者の氏名
	住 所
	登録の年月日及び 登録番号
承継者に 関する事項	事務所の所在地
	登録の年月日及び 登録番号

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第五十一号様式(第六十三条関係)

登録住宅型式性能認定等機関事業譲渡証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

被承継者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

承 継 者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

次のとおり登録住宅型式性能認定等機関の事業の全部の譲渡がありましたことを証明します。

1. 登録の年月日

2. 登録番号

3. 譲渡しの年月日

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第五十二号様式(第六十三条関係)

登録住宅型式性能認定等機関事業相続同意証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

証明者 氏名
住所

次のとおり登録住宅型式性能認定等機関について相続がありましたことを証明します。

1. 被相続人の氏名及び住所

2. 登録の年月日

3. 登録番号

4. 登録住宅型式性能認定等機関の地位を承継する者として選定された者の氏名及び住所

5. 相続開始の年月日

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 証明書は、登録住宅型式性能認定等機関の地位を承継する者と選定された者以外の相続人全員の氏名を記載してください。

第五十三号様式(第六十三条関係)

登録住宅型式性能認定等機関事業相統証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

証明者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所
氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

次のとおり登録住宅型式性能認定等機関について相統がありましたことを証明します。

1. 被相統人の氏名及び住所

2. 登録の年月日

3. 登録番号

4. 登録住宅型式性能認定等機関の地位を承継した者の氏名及び住所

5. 相統開始の年月日

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 証明者は、2人以上としてください。

第五十四号様式(第六十三条関係)

登録住宅型式性能認定等機関事業承継証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

被承継者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

承継者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

次のとおり分割によって登録住宅型式性能認定等機関の事業の全部の承継がありましたことを証明します。

1. 登録の年月日

2. 登録番号

3. 承継の年月日

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第五十五号様式(第六十九条関係)

登録住宅型式性能認定等機関業務休廃止届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第44条第3項において準用する同法第23条第1項の規定に基づき、認定等の業務の一部(全部)の休止(廃止)をするので、次のとおり届け出ます。

1. 休止(廃止)しようとする認定等の業務の範囲

2. 休止(廃止)しようとする年月日

3. 休止しようとする場合にあっては、その期間

4. 休止(廃止)の理由

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第五十六号様式(第七十条関係)

登録住宅型式性能認定等機関認定等業務規程届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

認定等業務規程を定めたので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第49条第1項前段の規定に基づき、別添のとおり届け出ます。

備考

1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 届出に係る認定等業務規程を添付してください。

第五十七号様式(第七十条関係)

登録住宅型式性能認定等機関認定等業務規程変更届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者氏名

認定業務規程を変更したので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第49条第1項後段の規定に基づき、別添のとおり届け出ます。

1. 変更の内容

2. 変更の理由

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。
2 変更前及び変更後を対照した新旧条文の対照表を添付してください。

第五十八号様式(第七十一条関係)

認定等を行った旨の報告書

年 月 日

国土交通大臣 殿

報告者の住所
報告者の氏名又は名称
代表者の氏名

認定(認証・認証の更新)を行ったので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第53条第1項の規定に基づき、次のとおり報告します。

記

1. 認定(認証・認証の更新)を受けた者の氏名又は名称及び住所

2. 認定(認証・認証の更新)をした型式に係る住宅又はその部分の種類(型式住宅部分等の種類)

3. 認定(認証・認証の更新)をした型式(型式住宅部分等)に係る性能表示事項

4. 住宅に係るものにあつては、認定(認証・認証の更新)をした型式(型式住宅部分等)に係る性能

5. 認定(認証)番号

6. 認定(認証・更新)年月日

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。
2 報告者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

第五十九号様式(第七十八条関係)

特別評価方法認定申請書

年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の氏名又は名称

代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第58条第1項の規定による特別評価方法認定を受けたいので、次のとおり申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

記

1. 認定を受けようとする特別評価方法の名称

2. 認定を受けたい特別評価方法を用いて評価されるべき性能表示事項

3. 備考

(注意)

① 申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

② 備考欄には、当該申請以外に特別評価方法認定を受けようとしている旨を記載する等所要の事項を記載してください。

備考

1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 各欄に記載すべき事項は、別紙により提出することができます。

3 この申請書の右上に手数料の額に相当する収入印紙(消印をしていないもの)に限る。)を貼付してください。

第六十号様式(第八十条関係)

特別評価方法認定書

第 号

年 月 日

申請者

様

国土交通大臣 印

下記の特別評価方法については、住宅の品質確保の促進等に関する法律第58条第1項の規定に基づき、日本住宅性能表示基準に従って表示すべき性能に関し、評価方法基準に従った方法に代わるものであることを認定する。

記

1. 認定番号

2. 認定をした特別評価方法の名称

3. 認定をした特別評価方法を用いて評価されるべき性能表示事項

4. 認定をした特別評価方法の内容

5. 備考

第六十一号様式(第八十条関係)

特別評価方法認定をしない旨の通知書

第 年 月 日

申請者 様 国土交通大臣 印

下記の申請については、下記の理由により住宅の品質確保の促進等に関する法律第58条第1項の規定による特別評価方法認定をしないこととしたので、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第80条第2項の規定により通知書を交付します。

なお、この処分不服があるときは、この通知を受けた日の翌日から起算して60日以内に国土交通大臣に対して異議申立てをすることができます。

記

1. 申請年月日 年 月 日

2. 申請に係る特別評価方法の名称

3. 理由

第六十二号様式(第八十二条関係)

試験申請書

第 年 月 日

国土交通大臣 殿 登録試験機関

申請者の氏名又は名称 代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第59条第2項に規定する試験を受けたいので、次のとおり申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

記

1. 当該試験に基づき認定を受けようとする特別評価方法の名称

2. 当該試験を受けようとする特別評価方法を用いて評価されるべき性能表示事項

3. 試験の区分

4. 当該特別評価方法の内容

5. 備考

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 登録外国試験機関が、業務の円滑な実施を図るため必要な範囲内でこの様式の一部を変更した場合は、それによることができます。

3 3. 試験の区分については、特別の構造方法に応じて評価する方法の認定のうち、構造の安定に関する性能表示事項として国土交通大臣が定めるものに係るものにあっては、床面積の合計を併せて記載してください。

4 各欄に記載すべき事項は、別紙により提出することができます。

5 国土交通大臣に申請する場合は、この申請書の右上に手数料の額に相当する収入印紙(消印をしていないものに限る。)を貼付してください。

第六十三号様式(第八十三条関係)

試験の結果の証明書

第 年 月 日

申請者 様

登録試験機関 印

先に申請のあった特別評価方法に関する試験の結果については、下記のとおりであることを証明する。

記

- 当該試験に基づき認定を受けようとする特別評価方法の名称
- 試験の申請者の氏名又は名称及び住所
- 当該特別評価方法を用いて評価されるべき性能表示事項
- 当該特別評価方法によって代えられる評価方法基準の部分
- 試験の区分
- 当該特別評価方法の内容
- 試験の内容
 - 試験員の氏名
 - 試験の結果
- 備考

(注意)

申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 各欄に記載すべき事項は、別紙により提出することができます。

第六十四号様式(第八十四条関係)

登録試験機関登録申請書

年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の住所

申請者の氏名又は名称

代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第61条第1項に規定する登録を受けたいので、同法第61条第2項の規定に基づき、申請します。

- 登録を受けようとする区分
- 試験の業務を行う事務所の所在地
- 試験員の氏名
- 役員の氏名(申請者が法人である場合に限る。)
- 試験の業務を行う部門の専任の管理者の氏名
- 試験の業務を開始しようとする年月日

(注意)

申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 第84条各号に掲げる書類を添付してください。

第六十五号様式(第八十七条関係)

登録試験機関変更届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

下記のとおり、
(1) 氏名又は名称及び住所並びに代表者の氏名
(2) 試験の業務を行う事務所の所在地
(3) 試験員の氏名
(4) 役員の氏名(申請者が法人である場合に限り。)
(5) 試験の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

を変更するので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第61条第3項において準用する同法第10条第2項の規定に基づき、届け出ます。

記

1. 変更事項

届出事項	変 更 前	変 更 後	変更予定年月日	備 考

2. 変更の理由

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第六十六号様式(第八十八条関係)

登録試験機関登録更新申請書

年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の住所
申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

登録の更新を受けたいので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第61条第3項において準用する同法第11条第1項の規定に基づき、申請します。

1. 登録番号
2. 登録の有効期限 年 月 日
3. 登録の区分
4. 試験の業務を行う事務所の所在地
5. 試験員の氏名
6. 役員の氏名(申請者が法人である場合に限り。)
7. 試験の業務を行う部門の専任の管理者の氏名

(注意)
申請者が法人である場合には、代表者の氏名も併せて記載してください。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。
2 第84条各号に掲げる書類を添付してください。

第六十七号様式(第八十九条関係)

登録試験機関事業承継届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第61条第3項において準用する同法第12条第2項の規定により、次のとおり届け出ます。

承継の原因		
被承継者に関する事項	氏名又は名称	
	法人にあってはその代表者の氏名	
	住所	
	登録の年月日及び登録番号	
	事務所の所在地	
承継者に関する事項	登録の年月日及び登録番号	

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第六十八号様式(第八十九条関係)

登録試験機関事業譲渡証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

譲り渡した者 氏名又は名称及び法人にあってはその代表者の氏名
住所

譲り受けた者 氏名又は名称及び法人にあってはその代表者の氏名
住所

次のとおり登録試験機関の事業の全部の譲渡がありましたことを証明します。

1. 登録の年月日

2. 登録番号

3. 譲渡しの年月日

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第六十九号様式(第八十九条関係)

登録試験機関事業相統同意証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

証明者 氏名

住所

次のとおり登録試験機関について相統がありましたことを証明します。

1. 被相統人の氏名及び住所

2. 登録の年月日

3. 登録番号

4. 登録試験機関の地位を承継する者として選定された者の氏名及び住所

5. 相統開始の年月日

備考

1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 証明書は、登録試験機関の地位を承継する者と選定された者以外の相統人全員の氏名を記載してください。

第七十号様式(第八十九条関係)

登録試験機関事業相統証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

証明者 氏名又は名称及び法人にあつては
はその代表者の氏名住所
氏名又は名称及び法人にあつては
はその代表者の氏名住所

次のとおり登録試験機関について相統がありましたことを証明します。

1. 被相統人の氏名及び住所

2. 登録の年月日

3. 登録番号

4. 登録試験機関の地位を承継した者の氏名及び住所

5. 相統開始の年月日

備考

1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 証明者は、2人以上としてください。

第七十一号様式(第八十九条関係)

登録試験機関事業承継証明書

年 月 日

国土交通大臣 殿

被承継者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

承 継 者 氏名又は名称及び法人にあつては
その代表者の氏名
住所

次のとおり分割によって登録試験機関の事業の全部の承継がありましたことを証明します。

1. 登録の年月日

2. 登録番号

3. 承継の年月日

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第七十二号様式(第九十五条関係)

登録試験機関業務休廃止届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届 出 者 の 住 所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第61条第3項において準用する同法第23条第1項の規定に基づき、試験の業務の一部(全部)の休止(廃止)をするので、次のとおり届け出ます。

1. 休止(廃止)しようとする試験の業務の範囲

2. 休止(廃止)しようとする年月日

3. 休止しようとする場合にあっては、その期間

4. 休止(廃止)の理由

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第七十三号様式(第九十六条関係)

登録試験機関試験業務規程届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

試験業務規程を定めたので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第61条第3項において準用する同法第49条第1項前段の規定に基づき、別添のとおり届け出ます。

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。
2 届出に係る試験業務規程を添付してください。

第七十四号様式(第九十六条関係)

登録試験機関試験業務規程変更届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者氏名

試験業務規程を変更したので、住宅の品質確保の促進等に関する法律第61条第3項において準用する同法第49条第1項後段の規定に基づき、別添のとおり届け出ます。

1. 変更の内容

2. 変更の理由

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。
2 変更前及び変更後を対照した新旧条文の対照表を添付してください。

第七十五号様式(第百三条関係)

指定住宅紛争処理機関業務休廃止届出書

年 月 日

国土交通大臣 殿

届出者の住所
届出者の氏名又は名称
代表者の氏名

住宅の品質確保の促進等に関する法律第66条第3項において準用する同法第23条第1項の規定に基づき、紛争処理の業務の一部(全部)の休止(廃止)をするので、次のとおり届け出ます。

1. 休止(廃止)しようとする紛争処理の業務の範囲

2. 休止(廃止)しようとする年月日

3. 休止しようとする場合にあっては、その期間

4. 休止(廃止)の理由

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第七十六号様式(第百四条関係)

住宅紛争処理申請書

年 月 日

指定住宅紛争処理機関 殿

申請人

1. 当事者及びその代理人並びに相手方の氏名又は名称及び住所

申請人 【氏名又は名称】
【住所】
【電話番号】

代理人 【氏名又は名称】
【住所】
【電話番号】

相手方 【氏名又は名称】
【住所】
【電話番号】

2. 評価住宅に関する事項
【評価住宅番号】
【評価住宅の所在地】

3. 住宅紛争処理の別
あつせん・調停・仲裁

4. 住宅紛争処理を求める事項

5. 紛争の問題点、交渉経過の概要及び請求の内容

6. その他の住宅紛争処理を行うに際し参考となる事項

【契約の種類】	建設工事請負契約・売買契約		
【契約金額】	円		
【引渡し時期】	年	月	日
【住宅の概要】			
【構造・工法】			
【竣工時期】	年	月	日
【延べ面積】	㎡		

備考

1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

2 指定住宅紛争処理機関が、業務の円滑な実施を図るため必要な範囲内でこの様式の一部を変更した場合は、それによることができます。

3 各欄に記載すべき事項は、別紙により提出することができます。

4 商業登記簿謄本、資格証明書等の所要の書類を併せて提出してください。

5 契約書、住宅性能評価書その他住宅紛争処理の参考となる書類を併せて提出してください。

第七十七号様式(第二百二十一条関係) 年度助成金使途計画書
(年 月 日から 年 月 日)
住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第121条第1項の規定により、助成金使途計画書を提出します。
年 月 日

住宅紛争処理支援センター 殿 指定住宅紛争処理機関名 代表者の氏名				
科 目	予 算 額 (円)	前年度予算額 (円)	増 減 (円)	備 考
I 収入の部 1. 助成金収入 2. 申請手数料収入 3. 当事者負担金 収入合計				
II 支出の部 1. 人件費 2. 事務所使用料 3. 貸会議室使用料 4. 紛争処理委員謝金 5. 鑑定・現地調査費 6. 設備費 7. 諸雑費 8. 設立準備費 支出合計				

(注) ① 収入合計、支出合計の一致を確認してください。
② 支出の部に掲げる科目以外にも科目(細目を含む。)を設けることができます。
③ 備考欄には、必要に応じ、各科目の予算額について、その主な使途、前年度予算との増減の要因等を記入してください。
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第七十八号様式(第二百二十一条関係) 年度期首計画書
住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第121条第1項の規定により、期首計画書を提出します。
年 月 日

指定住宅紛争処理機関名 代表者の氏名			
1. 紛争処理見込件数			
項 目	前年度実績見込み		当年度見込み
紛 争 処 理 件 数			
2. 職員給与等 (職員給与)			
職 員 の 氏 名	給 与(円) (A)	従 事 割 合 (%) (B)	助成申請額(円) (A) × (B)
合		計	
(職員退職金)			
職 員 の 氏 名	退職金(円) (A)	勤続年数 (B)	紛争処理実質従 事年数 (C)
			助成申請額(円) (A) ÷ (B) × (C)
合		計	

3. 事務所使用料
(1) 事務所所在地
(2) 事務所区分(どちらかに○)
(所有事務所・借用事務所)

事務所賃料(円) (A)	総床面積(m ²) (B)	紛争処理業務使用床 面積(m ²) (C)	助成申請額(円) (A)×月数×(C)÷(B)

(注意)
① 給与とは、基本給及び賞与のことを示します。
② 職員給与の従事割合欄には、今期当該職員が、職務のうち住宅紛争処理業務に従事する割合の見込値を記入してください。
③ 職員退職金の勤続年数は、四捨五入により小数点第2位まで算出してください。
④ 職員退職金の紛争処理実質従事年数は、過去の勤務年数における従事割合実績値及び今期における従事割合見込値の合計を、四捨五入により小数点第2位まで算出してください。
(例) 1年目従事割合30%、2年目従事割合40%、3年目(今期)従事割合50%で6ヶ月勤務後退職予定の職員の場合
紛争処理実質従事年数＝0.3＋0.4＋0.5×(6／12)＝0.95年
⑤ 事務所使用料の事務所賃料は、1月当たりの賃料を記入してください。
⑥ 事務所使用料の紛争処理業務使用床面積とは、所有事務所又は借用事務所において紛争処理の業務に利用されている部分の面積のことです。
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第七十九号様式（第二百一十一条関係）

第七十九号様式(第二百一十一条関係)
年度設備購入計画書
(年 月 日から 年 月 日)
住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第121条第1項の規定により、設備購入計画書を提出します。
年 月 日
住宅紛争処理支援センター 殿
指定住宅紛争処理機関名
代表者の氏名

購入するべき設備	数量	単 価(円)	価 格(円)	備 考
合	計			

(注意)
備考欄には、必要に応じ、主な使用目的を記入してください。
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。

第八十号様式(第二百二十三条関係) 年度助成金使途報告書
(年 月 日から 年 月 日)
住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第123条第1項の規定により、助成金使途報告書を提出します。
住宅紛争処理支援センター 殿 年 月 日

科 目		決算額(円)	前予算額(円)	差 異(円)	備 考
Ⅰ 収入の部					
1. 助成金収入					
2. 申請手数料収入					
3. 当事者負担金					
収入合計 (A)					
Ⅱ 支出の部					
1. 人件費					
2. 事務所使用料					
3. 貸会議室使用料					
4. 紛争処理委員謝金					
5. 鑑定・現地調査費					
6. 設備費					
7. 諸雑費					
8. 設立準備費					
支出合計 (B)					
助成返還金 (A)－(B)					

(注意)
① 収入合計と、支出合計及び助成返還金の合計額の一致を確認してください。
② 支出の部に掲げる科目以外にも科目(細目を含む。)を設けることができます。
③ 備考欄には、必要に応じ、各科目の決算額について、その主な使途、予算額との差異の要因等を記入してください。
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4としてください。